香川県埋蔵文化財調査年報

平成17年度

2006.12

香川県教育委員会

985

例　　言

1．本書は、香川県内における平成17年度の埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。

2．発掘調査の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡ごとに示し、文化財保護法にもとづく届出等については一覧表に示した。

3．遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委主体の調査を含め、それぞれ原則として西から東の地域への順とした。

4．各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の１地形図を使用した。

5．各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を文化行政課が行った。

目　　次

Ⅰ　平成17年度埋蔵文化財保護行政の動向 …… 1
Ⅱ　平成17年度文化財保護法にもとづく届出等一覧及び発掘調査の概要 …… 3
1．文化財保護法にもとづく届出等
（1）遺跡発見の届出・通知（第96,97条） …… 3
（2）埋蔵文化財発掘の届出・通知（第93,94条） …… 4
（3）埋蔵文化財発掘調査の報告（第99条） …… 8
（4）開発事業等に伴う埋蔵文化財試掘調査 …… 10
（5）埋蔵文化財現地踏査・立会調査の状況 …… 14
2．発掘調査の概要
（1）史跡宗吉瓦窯跡 …… 22
（2）岡本帰来遺跡・不動の滝遺跡 …… 23
（3）稲木北遺跡 …… 24
（4）永井北遺跡 …… 25
（5）菊塚古墳 …… 26
（6）樽池西手山頂墳3号 …… 27
（7）四国学院大学構内遺跡 …… 28
（8）善通寺旧境内 …… 29
（9）善通寺陣所跡 …… 30
（10）旧善通寺偕行社 …… 31
（11）庄八尺遺跡 …… 32
（12）田村遺跡 …… 33
（13）中の池遺跡 …… 34
（14）池下遺跡 …… 35
（15）西長尾城跡 …… 37
（16）佐古川・大妻田遺跡 …… 39
（17）東坂元秋常遺跡 …… 41
（18）中寺廃寺跡 …… 42
（19）椀貸塚 …… 43
（20）奥川内2号墳 …… 44
（21）西末則遺跡 …… 46
（22）山田下吉田遺跡 …… 47
（23）三島古墳 …… 48
（24）史跡城山 …… 49
（25）烏帽子山遺跡 …… 50
（26）開法寺跡 …… 51
（27）本郷遺跡 …… 52
（28）川原遺跡 …… 53
（29）川島本町遺跡 …… 54
（30）川島本町南遺跡 …… 55
（31）太田下・須川遺跡 …… 56
（32）雨山南古墳群 …… 58
（33）多肥松林遺跡 …… 59
（34）多肥宮尻遺跡 …… 60
（35）高松城跡（寿町地区） …… 61
（36）史跡高松城跡（鉄門） …… 62
（37）史跡天然記念物屋島（屋嶋城跡） …… 63
（38）三谷中原遺跡 …… 64
（39）舟岡古墳 …… 65
（40）神内城跡 …… 66
（41）特別史跡讃岐国分寺跡 …… 67
（42）野倉4号墳 …… 68
（43）かんかん山古墳群 …… 69
（44）白山4遺跡 …… 70
（45）石田高校校庭内遺跡 …… 71
（46）鵜の部山古墳 …… 72
（47）一つ山古墳 …… 73
（48）大串石切場跡 …… 74
（49）上辛立遺跡 …… 75
（50）引田城跡 …… 76
（51）円仏寺北遺跡 …… 77
Ⅲ　平成17年度香川県埋蔵文化財センターの発掘調査状況
1．国事業に伴う発掘調査事業 …… 78
2．事業に伴う発掘調査事業 …… 78

Ⅰ　平成17年度埋蔵文化財保護行政の動向

1．はじめに

香川県では、近年の財政状況等による開発事業の規模及び量の変化や市町合併により、埋蔵文化財保護をめぐる状況は大きく変化している。一方、開発事業計画においては埋蔵文化財の存在が一層注目されており、埋蔵文化財包蔵地を正確に把握して開発と埋蔵文化財保護を調整できる体制の充実が必要である。このため、広報活動や史跡指定等を実施して、埋蔵文化財に対する県民の理解と協力を得るように努めている。

2．埋蔵文化財保護体制の整備

香川県の体制は、県教育委員会の埋蔵文化財担当職員３名（専門職員３名）と、香川県埋蔵文化財センター（以下、埋蔵文化財センター）の調査担当職員名15名（専門職員13名、教員２名）をあわせた合計18名である。

市町の埋蔵文化財専門職員は、平成16年度には６市７町に配置されていた。これに東讃２市の埋蔵文化財調査を担当する大川広域行政組合を含めても、埋蔵文化財専門職員の配置率は41％と低い状態であった。平成14年度から始まった市町合併は、平成17年度で一段落し、これにより７市３町に専門職員が配置されることになった。専門職員の配置率は65％に上昇したものの、担当者の増員が無いうえ、担当区域が広域化するなど、実質的には担当者の負担増となっており、今後適切な職員配置が求められる。

県内の埋蔵文化財専門職員の配置状況

香川県	16名	観音寺市	1名	多度津町	1名
高松市	6名	さぬき市	1名	大川広域	2名
丸亀市	2名	三豊市	1名		
坂出市	2名	三木町	1名		
善通寺市	2名	まんのう町	1名	合計	46名

3．埋蔵文化財包蔵地に関する事務処理状況

埋蔵文化財の有無が、開発事業計画時の確認事項となっている例が多くなっており、それによる照会が増加傾向にある。また平成15年から不動産鑑定評価基準等の改正が施行され、埋蔵文化財が不動産価格を形成する要因とされたため、当該土地が埋蔵文化財包蔵地かどうかの照会が多くなっている。このようななか、埋蔵文化財保護の基礎となる遺跡地図及び遺跡台帳等は、市町教育委員会と情報交換を随時行い、その整備を図っているが、今後一層重要となる。

一部の市町では、農地転用手続きに伴い埋蔵文化財の確認が必要となったため、これに伴う発掘届が増加している。文化財保護法第93条に基づく発掘届の件数は、平成16年度以前が年平均10件程度だったのが、平成17年度は31件に増加している。

4．開発事業の動向と開発事業との調整

県教育委員会では、国・県等の開発事業と埋蔵文化財保護の調整のため、毎年、国・県等の事業者に対して向こう３年間の事業計画を照会し、その回答をもとに、試掘・確認調査等を国

庫補助事業等で実施している。大規模開発事業はほぼ終了し、小規模事業が多くなっているため、平成17年度に実施した試掘調査は、18件と件数は前年並みであったが、小規模試掘調査が多く、調査経費は減少している。

試掘調査の成果をうけて開発事業との調整の結果、現状保存できない遺跡については、「開発事業等に伴う埋蔵文化財（遺跡）の取扱い要綱」によりその取扱いを決定し、そのうち、発掘調査と判断したものは、埋蔵文化財センターが調査を実施した。埋蔵文化財センターでは、平成17年度、11遺跡で24,698㎡の発掘調査を実施するとともに、９遺跡の整理作業と６遺跡の報告書印刷を行った。

大規模開発事業の減少に伴い、埋蔵文化財センターの事業規模も、平成14年度は６班体制、調査面積約52,100㎡、平成15年度は６班体制、調査面積34,649㎡、平成17年度は４班体制、24,698㎡と縮小傾向にある。今後とも、調査事業の増加は見込めない状況である。

市町、個人等の事業に伴い、市町教育委員会では、国庫補助事業で開発に伴う事前の試掘・確認調査を実施しており、県内全体では46件の調査を実施した。個人住宅や大型店舗建設に伴う試掘・確認調査が増加している。また、開発事業に伴う本発掘調査は、13件である。なお、綾川町では町が行う土砂採取に伴い古墳の調査を開始したところ、この古墳が前方後円墳であることが判明したため、県教育委員会の助言を受け、土砂採取を中止し、古墳を現状保存した。大型店舗や個人住宅等の計画は、今後も増加する可能性があり、市町教育委員会では関係機関等との連絡をさらに密にし、人員を含め適切な埋蔵文化財保護体制を確立することが急務となっている。

５．史跡指定と保存・整備

高松市の史跡高松城跡鉄門及び天守台石垣保存修理、三豊市の史跡宗吉瓦窯跡の保存整備を国庫補助事業で実施した。高松市の史跡天然記念物屋島では、城門の調査を実施し、今後の城門整備へ向けての準備を行った。丸亀市の快天山古墳は、補助事業で公有地化を実施し、史跡指定範囲はすべて公有地となった。今後、整備事業を実施していく予定である。

善通寺市の菊塚古墳は、平成12年度からの発掘調査でその内容が明らかになり、史跡有岡古墳群への追加指定に向けて準備している。まんのう町の中寺廃寺跡は、平成16年度から継続して発掘調査を実施しており、古代の山岳寺院の内容が次第に明らかとなっている。平成18年２月に町指定史跡となり、今後国指定へ向けて調査を実施する予定である。

６．広報活動の推進

埋蔵文化財センターでは、発掘調査の成果を現地説明会や展示室で紹介している。また四国４県の埋蔵文化財センターによる巡回展「発掘へんろ」を昨年度に引き続き実施した。学校教育等との連携では、出土品の貸出しを行うともに、県内の学校や資料館等に「土器づくり」「勾玉づくり」等の出前授業を実施した。

市町においても、発掘調査の現地説明会や出前授業を実施するとともに、「古墳まつり」「史跡まつり」「全国国分寺サミット」などのイベントを実施し、史跡を活用している。

また香川県教育委員会では、「ふるさと学習社会人講師養成講座」事業を今後６年間、県内各地で実施する予定である。史跡や埋蔵文化財を含むさまざまな文化財を活用した事業で、平成17年度は、三豊市と丸亀市で事業を実施した。

Ⅱ　平成17年度文化財保護法にもとづく届出等一覧及び発掘調査の概要

1．文化財保護法にもとづく届出等一覧

平成17年度の文化財保護法第92条、第93,94条、第96,97条，第99条にもとづく届出・通知件数は以下の通りである。

	届出・通知件数
第92条	0
第93条	31
第94条	28
第96条	3
第97条	1
第99条	34

（1）遺跡発見の届出・通知（第96・97条）

番号	位置	原因	発見者	発見日	遺跡の種類	遺跡の時代	指導内容	香川県文書番号
1	綾歌郡 綾南町 大字陶	土木工事中	個人	平成17年３月４日	生産遺跡	奈良・平安	慎重工事	17教文第 166－１号
2	善通寺市 文京町	土木工事中	四国学院大学理事長 根来　泰治	平成17年８月11日	集落跡	古墳・奈良	工事立会	17教文第 166－２号
3	木田郡 三木町 鹿庭出作	土木工事中	香川県東讃土地改良事務所長 兼間　和行	平成17年10月19日	古墳	古墳	発掘調査	17教文第 166－３号
4	坂出市 府中町 字榿	分布調査	坂出市教育委員会教育長 中井　富普	平成17年８月26日	集落跡	古墳	－	17教文第 166－４号

（２）埋蔵文化財発掘の届出（第93条）

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶	集落跡・生産遺跡	平安	17教文第105－２号
2	中の池遺跡	丸亀市金倉町字道上	集落跡	弥生	17教文第105－３号
3	雨山南３号墳	高松市三谷町	古墳	古墳	17教文第105－５号
4	中の池遺跡	丸亀市金倉町字道上	集落跡	弥生	17教文第105－４号
5	道下遺跡	丸亀市金倉町字道下	散布地	弥生	17教文第105－６号
6	道下遺跡	丸亀市金倉町字道下	散布地	弥生	17教文第105－７号
7	三谷中原遺跡	高松市三谷町	集落跡	平安	17教文第105－９号
8	道下遺跡	丸亀市金倉町字道下	散布地	弥生	17教文第105－10号
9	拝師廃寺	高松市上林町	集落跡	平安	17教文第105－15号
10	中の池遺跡	丸亀市金倉町字道上	集落跡	弥生	17教文第105－19号
11	柞原西村遺跡	丸亀市柞原町	散布地	奈良	17教文第105－21号
12	舟岡古墳	香川郡香川町浅野	古墳	古墳	17教文第105－23号
13	神内城跡	高松市木太町	城館跡	中世	17教文第105－26号
14	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生・古墳	17教文第105－27号
15	道下遺跡	丸亀市金倉町字道下	散布地	弥生	17教文第105－34号
16	柞原西村遺跡	丸亀市柞原町	散布地	奈良	17教文第105－40号
17	多肥松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生	17教文第105－45号
18	高松城跡（寿町地区）	高松市寿町	城館跡	近世	17教文第105－48号
19	かんかん山古墳群	木田郡三木町大字上高岡字諏訪	古墳	古墳	17教文第105－51号
20	中の池遺跡	丸亀市金倉町	弥生	弥生	17教文第105－44号
21	大堀城跡	仲多度郡満濃町大字吉野	城館跡	中世	17教文第105－52号
22	佐古川・大妻田遺跡	丸亀市綾歌町栗熊西字大妻田	集落跡	弥生	17教文第105－55号
23	兎子山遺跡	綾歌郡国分寺町新名字宮腰	散布地	旧石器	17教文第105－57号
24	善通寺陣所跡	善通寺市善通寺町	城館跡	中世	17教文第105－58号
25	道下遺跡	丸亀市金倉町字道下	散布地	弥生	17教文第105－61号
26	中の池遺跡	丸亀市金倉町	集落跡	弥生	17教文第105－63号
27	烏帽子山遺跡	坂出市加茂町	散布地	弥生	17教文第105－64号
28	池下遺跡	丸亀市綾歌町栗熊東字北池下	集落跡	弥生・奈良	17教文第105－66号
29	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶字西村	集落跡・生産遺跡	平安	17教文第105－72号
30	西村遺跡	綾歌郡綾南町大字陶字西村	集落跡・生産遺跡	平安	17教文第105－75号
31	中の池遺跡	丸亀市金倉町字道上	集落跡	弥生	17教文第105－76号

事業目的	事業主体	事業面積（㎡）	事業期間	指導内容
用地造成	個　人	367	17.6.15～17.7.31	慎重工事
個人住宅建設	個　人	781	17.7.10～17.11.30	工事立会
無線基地局建設	四電エンジニアリング株式会社 代表取締役社長　藤岡正直	95	17.6.1～17.8.31	発掘調査
宅地造成	個　人	343	17.7.10～18.1.31	工事立会
道路建設	個　人	352	未定	工事立会
宅地造成	個　人	333	未定	工事立会
遊戯施設建設	株式会社ポジション代表取締役 平山　剛	60	17.6～17.7	工事立会
貸店舗建設	個　人	1,827	17.8.10～18.2.28	発掘調査・ 工事立会
共同住宅建設	個　人	888	17.8.3～17.12.5	発掘調査
住宅建設	個　人	999	～18.6	工事立会
共同住宅建設	個　人	3,594	17.8.1～18.2.28	工事立会
個人住宅改築に伴う進入路建設	個　人	6	17.9.1～17.9.30	工事立会
ガソリンスタンド建設	出光興産株式会社四国支店支店長 田口　守	2,993	17.10.1～17.12.15	発掘調査・ 工事立会
衣料品販売店舗建設	株式会社しまむら代表取締役 中野正人	180	18.1.11～18.5.24	発掘調査
住宅建設	個　人	507	未定	工事立会
共同住宅建設	個　人	515	未定	工事立会
店舗建設	株式会社ビッグ・エス代表取締役 大坂靖彦	620	17.12.1～18.7.31	発掘調査
テナントビル建設	香川トヨタ自動車株式会社 代表取締役　難波順一	550	18.4.1～19.5.31	発掘調査
無線中継施設建設	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ 四国代表取締役社長　中澤正良	605	未定	工事立会
宅地造成	株式会社カワサキライフコーポレーション 不動産事業部坂出支店長　米沢駒爾	3,309	17.10.10～17.12.31	慎重工事
宅地造成	個　人	460	未定	工事立会
宅地造成	有限会社大旺不動産　代表取締役 渡邊千亜紀	4,306	18.1.28～18.3.1	工事立会
無線中継所新設	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ 四国代表取締役社長　中澤正良	74	18.2.15～18.8.15	工事立会
売店移転	宗教法人善通寺　法主　高吉清順	72	18.1.16～	工事立会
宅地造成	総合開発株式会社代表取締役 大西勝二	912	未定	工事立会
個人住宅建設	個　人	100	18.4.1～18.8.10	工事立会
採石事業	山樋石材株式会社代表取締役 川井信夫	334,961	17.11.27～20.11.26	慎重工事
店舗駐車場建設	個　人	588	18.4.6～18.5.20	工事立会
駐車場造成	個　人	178	18.3.28～18.4.1	工事立会
駐車場造成	個　人	45	18.3.25～18.5.24	工事立会
住宅建設	個　人	232	未定	慎重工事

（３）埋蔵文化財発掘調査の通知（第94条）

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	本郷遺跡	高松市中間町・西山崎町	集落跡	弥生・中世	17教文第105号
2	本庄城跡	仲多度郡琴平町五条八反地	城館跡	中世	17教文第105－８号
3	讃岐国府跡	坂出市府中町	官衙跡	奈良・平安・中世	17教文第105－11号
4	岡本帰来遺跡・不動の滝遺跡	三豊郡豊中町大字岡本	集落跡	弥生・中世	17教文第105－12号
5	稲木北遺跡・永井北遺跡	善通寺市中村町・稲木町	集落跡	弥生・中世	17教文第105－13号
6	白山４遺跡	木田郡三木町大字下高岡	集落跡	弥生	17教文第105－14号
7	上辛立遺跡	さぬき市長尾西	集落跡	弥生	17教文第105－17号
8	石田高校校庭内遺跡	さぬき市寒川町石田東	集落跡	弥生	17教文第105－16号
9	中の池遺跡	丸亀市金倉町	集落跡	弥生	17教文第105－18号
10	三島古墳	綾歌郡綾上町東分	古墳	古墳	17教文第105－19号
11	阿弥陀堂	綾歌郡綾上町山田下	その他の墓	中世	17教文第105－22号
12	一ノ谷池遺跡	観音寺市中田井町字天神岡	集落跡	弥生	17教文第105－22号
13	中の池遺跡	丸亀市金倉町	集落跡	弥生	17教文第105－25号
14	木太中村遺跡	高松市木太町	集落跡	弥生・古墳	17教文第105－28号
15	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	散布地	奈良・平安	17教文第105－29号
16	楠谷遺跡	東かがわ市水主	集落跡	弥生・古墳	17教文第105－30号
17	高原遺跡	東かがわ市水主	集落跡	弥生・古墳	17教文第105－31号
18	金毘羅山遺跡	東かがわ市水主	集落跡	弥生・古墳	17教文第105－32号
19	大塚神社古墳	綾歌郡綾上町牛川	古墳	古墳	17教文第105－33号
20	条里跡	香川郡香南町大字吉光	その他の遺跡	古代～中世	17教文第105－35号
21	西長尾城跡	仲多度郡満濃町新古国有林51林班	城館跡	中世	17教文第105－36号
22	西長尾城跡	丸亀市綾歌町岡田上	城館跡	中世	17教文第105－37号
23	山田下吉田遺跡	綾歌郡綾上町山田下	集落跡	古墳	17教文第105－38号
24	東坂元秋常遺跡	丸亀市飯山町東坂元北岡	集落跡	弥生・中世	17教文第105－39号
25	津森位遺跡	丸亀市津森町	集落跡	弥生・古墳・奈良	17教文第105－41号
26	川島本町遺跡	高松市川島本町	集落跡	弥生・中世	17教文第105－42号
27	川島本町南遺跡	高松市池田町	集落跡	弥生・中世	17教文第105－43号
28	高屋条里遺跡	観音寺市高屋町字二ノ坪	集落跡	弥生・奈良	17教文第105－47号

事業目的	事業主体	事業面積（㎡）	事業期間	指導内容
道路建設	香川県高松土木事務所長　久保市朗	3,507	17.9.1～21.3.31	発掘調査
仮校舎建設	香川県立琴平高等学校長　久保道生	474	17.6.1～17.7.10	工事立会
ポンプ施設建設	坂出市水道局水道事業管理者 松浦稔明	1,680	17.7～18.3	慎重工事
農道建設	香川県西讃土地改良事務所長	654	17.10.1～18,3.31	発掘調査
道路建設	国土交通省四国地方整備局 香川河川国道事務所長	4,878	18.4.1～19.3.31	発掘調査
観光開発	三木町長　石原　收	17,319	17.7.10～18.3.31	発掘調査
隣保館建設	さぬき市長　赤澤申也	706	17.11.1～18.3.31	発掘調査
造園施工実習室建築	香川県知事　真鍋武紀	252	17.4.1～18.3.31	発掘調査
公園造成	丸亀市長　新井哲二	378	17.10～18.3	工事立会
宅地造成・土砂採取	綾上町長　祐安　正	590	17.4.1～17.3.1	発掘調査
土地区画整理	香川県中讃土地改良事務所長 谷西　毅	4,990	17.9.5～18.3.31	工事立会
公園整備	観音寺市長　白川晴司	4,000	17.10.20～20.3.31	工事立会
堤体改修	中国四国農政局香川農地防災事業所長 木下勝義	500	17.10.1～18.3.31	工事立会
道路建設	香川県高松土木事務所長　竹地　保	30	17.9.7～17.9.16	工事立会
送水管布設	香川県水道局長	932	18.1～18.3.15	工事立会
水道	香川県水道局長	911	17.9.26～18.1.31	慎重工事
水道	香川県水道局長	911	17.9.26～18.1.31	慎重工事
水道	香川県水道局長	911	17.9.26～18.1.31	慎重工事
土地区画整理	香川県中讃土地改良事務所長 谷西　毅	800	17.1.31～17.9.15	発掘調査
ため池の堤体改修	香川県東讃土地改良事務所長	25,000	17.10.1～18.3.31	慎重工事
災害復旧工事	四国森林管理局香川森林管理事務所長 横山　斉	25	17.11.1～18.3.17	工事立会
災害復旧工事	四国森林管理局香川森林管理事務所長 横山　斉	3	17.11.1～18.3.17	工事立会
土地区画整理	香川県中讃土地改良事務所長 谷西　毅	22,440	17.9.1～19.3.31	発掘調査
道路建設	香川県中讃土木事務所長	2,800	18.4～	発掘調査
道路建設	香川県中讃土木事務所長　北原義則	81	17.12.1～18.1.31	工事立会
道路建設	香川県高松土木事務所長　竹地　保	1,275	17.7.1～	発掘調査
道路建設	香川県高松土木事務所長　竹地　保	448	17.10.1～	発掘調査
道路建設	香川県西讃土木事務所長　高口秀和	160	17.11.21～18.3.27	工事立会

（4）埋蔵文化財発掘調査の報告（第99条）

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
1	田村遺跡	丸亀市田村町	集落跡	奈良	県道建設	香川県
2	西末則遺跡	綾上町山田下	集落跡	中世	農業試験場用地造成	香川県
3	本郷遺跡	高松市中間町	集落跡	古墳	県道建設	香川県
4	庄八尺遺跡	多度津町庄	集落跡	中世	県道建設	香川県
5	川島本町・川島本町南遺跡	高松市川島本町	集落跡	弥生	県道建設	香川県
6	石田高校校庭内遺跡	さぬき市寒川町	集落跡	弥生	実習施設建設	香川県
7	野倉4号墳	三木町鹿庭	古墳	古墳	農道建設	香川県
8	永井北遺跡・稲木北遺跡	善通寺市中村町	集落跡	古代	国道建設	国
9	東坂元秋常遺跡	丸亀市飯山町	集落跡	中世	国道建設	香川県
10	川原遺跡	高松市中間町	集落跡	古代	県道建設	香川県
11	讃岐国府跡	坂出市府中町本村上所	官衙跡	奈良・平安・中世	水道施設工事	坂出市
12	雨山南3号墳	高松市三谷町	古墳	古墳	通信無線局建設	四電エンジニアリング株式会社
13	中寺廃寺跡	仲多度郡琴南町造田	社寺跡	平安・中世	遺跡整備	琴南町
14	史跡城山	坂出市西庄町	山城跡	奈良	遺跡整備	坂出市
15	高松城跡	高松市玉藻町	城館跡	近世	遺跡整備	高松市
16	白山4遺跡	三木町氷上	集落跡	弥生	観光開発	三木町
17	菊塚古墳	善通寺市善通寺町	古墳	古墳	学術研究	善通寺市
18	神内城跡	高松市木太町	中世	古墳	ガソリンスタンド建設	出光興産株式会社
19	三島古墳	綾歌郡綾上町東分	古墳	古墳	宅地造成・土砂採取	綾上町
20	上辛立遺跡	さぬき市長尾西	集落跡	弥生	隣保館建設	さぬき市
21	多肥松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生	店舗建設	株式会社　ビックエス
22	多肥宮尻遺跡	高松市林町	集落跡	古墳	衣料品販売店舗建設	しまむら
23	樽池西手山頂墳3号	善通寺市善通寺町	古墳	古墳	学術研究	善通寺市
24	史跡天然記念物屋島	高松市屋島東町	城館跡	古墳	学術研究	高松市
25	鵜の部山古墳	さぬき市津田町鶴羽	古墳	古墳	遺跡整備	さぬき市
26	一つ山古墳	さぬき市津田町津田	古墳	古墳	遺跡整備	さぬき市

対　処	調査主体	面　積（㎡）	調査期間	担　　当　　者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教育委員会	790	2005.4.1～2005.6.30	香川県埋蔵文化財センター 西村・中里	県	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	1965	2005.4.1 ～2005.6.30	香川県埋蔵文化財センター 長井・福家・森	県	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	3857	2005.4.1～2005.8.31	香川県埋蔵文化財センター 森下・佐々木・宮武	県	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	5598	2005.4.1～2005.10.31	香川県埋蔵文化財調査センター 蔵本・小野・中嶋	県	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	1723	2005.7.1～2005.10.31	香川県埋蔵文化財センター 西村・中里	県	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	291	2005.9.1～2005.11.30	香川県埋蔵文化財センター 森下・佐々木・宮武	県	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	120	2005.11.1～2005.11.10	香川県教育委員会文化行政課 信里芳紀	県	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	4878	2005.7.1～2006.1.31	香川県埋蔵文化財センター 長井・福家・森	国	工事実施
事前調査	香川県教育委員会	2896	2005.11.1～2006.3.31	香川県埋蔵文化財調査センター 蔵本・小野・中嶋	県	－
事前調査	香川県教育委員会	2700	2005.12.1～2006.3.31	香川県埋蔵文化財センター 森下・佐々木・宮武	県	－
－	坂出市	1680	2005.5.23～2005.6.14	坂出市教育委員会　増田鉄平	坂出市	工事実施
事前調査	高松市	95	2004.6.6～2004.6.10	高松市教育委員会　川畑　聰	四電エンジニアリング株式会社	工事実施
－	琴南町	600	2005.5.9～2005.12.3	琴南町教育委員会　加納裕之	国・県・琴南町	－
－	坂出市	90	2005.7.11～2005.10.30	坂出市教育委員会　増田鉄平	国・県・坂出市	－
－	高松市	17	2005.8.17～2005.8.20	高松市教育委員会　大嶋和則	国・県・高松市	－
－	三木町	70	2004.10.1～2005.8.31	三木町教育委員会　石井健一	三木町	工事実施
－	善通寺市	30	2005.8.31～2005.9.16	善通寺市教育委員会 渡邉淳子	国・県・善通寺市	－
－	高松市	91	2005.9.20～2005.9.23	高松市教育委員会　川畑　聰	出光興産株式会社	工事実施
－	綾上町	590	2005.7.8～2005.11.9	片桐節子	綾上町	現状保存
事前調査	さぬき市	706	2005.8.8～2005.10.7	大川地区広域行政振興整備事務組合　阿河鋭二	さぬき市	工事実施
事前調査	高松市	620	2005.11.16～2005.11.28	高松市教育委員会　大嶋和則	株式会社　ビックエス	工事実施
事前調査	高松市	180	2005.11.21～2005.11.25	高松市教育委員会　大嶋和則	しまむら	工事実施
－	善通寺市	100	2005.11.1～2005.11.25	善通寺市教育委員会 渡邉淳子	国・県・善通寺市	－
－	高松市	100	2005.11.1～2006.3.17	高松市教育委員会　山元敏裕	国・県・高松市	－
－	さぬき市	150	2005.10.17～2005.12.2	大川地区広域行政振興整備事務組合　松田朝由	国・県・さぬき市	－
－	さぬき市	1000	2005.11.7～2005.12.9	大川地区広域行政振興整備事務組合　阿河鋭二	国・県・さぬき市	－

番号	名　　称	所　在　地	種　類	時　代	原　　因	原　因　者
27	山田下吉田遺跡	綾歌郡綾上町山田下	集 落 跡	古墳・中世	基盤整備事業	県農政水産部土地改良課
28	高松城跡	高松市番町二丁目	城 館 跡	近世	テナントビル建設	香川トヨタ自動車株式会社
29	椀貸塚	仲多度郡琴南町造田	その他の墓	中世	遺跡整備	琴南町
30	不動の滝遺跡・岡本帰来遺跡	三豊郡豊中町大字岡本	散 布 地	弥生・中世	農道建設	香川県西讃土地改良事務所
31	引田城跡	東かがわ市引田城山	城 館 跡	中世・近世	遺跡整備	東かがわ市
32	開法寺跡	坂出市府中町	社 寺 跡	奈良・平安・中世	遺跡整備	坂出市
33	円仏寺北遺跡	東かがわ市中山	集 落 跡	中世・近世	配水池築造工事	東かがわ市
34	宗吉瓦窯跡	三豊市三野町	生産遺跡	古墳	遺跡整備	三豊市

（５）開発事業に伴う試掘調査

番号	名　　称	所　在　地	原　　因	原　因　者
1	飯山地区	丸亀市飯山町東坂元	国道438号　道路改修事業（飯山工区）	香川県
2	中間地区	高松市中間町	円座香南線　道路改築事業	香川県
3	家の浦地区	三豊郡仁尾町家の浦	県道大浜仁尾線（家の浦工区）道路改修工事	香川県
4	太田上町地区	高松市太田上町	太田上町志度線　道路改築事業	香川県
5	大手町地区	丸亀市大手町	高松法務局丸亀支局新営工事	高松法務局
6	西庄地区	坂出市西庄町	国道11号坂丸バイパス道路改良工事（坂出市）	国土交通省
7	岡田地区	丸亀市綾歌町岡田上・岡田下	国道32号綾歌バイパス道路改良工事（綾歌町）	国土交通省
8	木太地区	高松市木太町	都市計画道路福岡三谷線　道路改築工事	香川県
9	西白方地区	仲多度郡多度津町西白方	県道丸亀詫間豊浜線　道路改築事業（多度津西工区）	香川県
10	津森地区	丸亀市津森町	県道多度津丸亀線緊急地方道路整備工事（丸亀工区）	香川県
11	高屋地区	観音寺市高屋町	県道丸亀詫間豊浜線（観音寺工区）緊急地方道路整備	香川県
12	政所池	香川郡香南町吉光	ため池等整備事業（政所池）	香川県
13	山田地区	綾歌郡綾上町山田下	経営体育成基盤整備事業（山田地区）	香川県
14	林地区	高松市林町	産業交流センター駐車場用地利用	香川県
15	城山地区	仲多度郡琴南町造田	県営中山間地域総合整備事業（中讃南部地区）城山ほ場整備	香川県
16	北地区	綾歌郡綾南町北	経営体育成基盤整備事業（北地区）	香川県
17	綾南南部地区	綾歌郡綾南町陶	経営体育成基盤整備事業（綾南南部地区）	香川県
18	奥白方地区	仲多度郡多度津町奥白方	県道多度津丸亀線道路改修事業（奥白方工区）	香川県

対　処	調査主体	面　積（㎡）	調査期間	担　　当　　者	費用負担	調査後の措置等
－	綾上町	261	2005.11.28～2006.1.10	片桐節子	県・綾上町	工事実施
事前調査	高松市	550	2006.1.12～2006.3.28	高松市教育委員会　小川　賢	香川トヨタ自動車株式会社	工事実施
－	琴南町	104	2006.2.2～2006.2.14	琴南町教育委員会　加納裕之	琴南町	－
事前調査	豊中町	654	2005.10.1～2006.3.31	豊中町教育委員会	県・豊中町	工事実施
－	東かがわ市	1,600	2005.12.5～2006.2.28	大川地区広域行政振興整備事務組合　阿河鋭二	東かがわ市	－
－	坂出市	482	2006.1.25～2006.3.17	坂出市教育委員会　増田鉄平	国・県・坂出市	－
事前調査	東かがわ市	200	2006.2.27～2006.3.23	大川地区広域行政振興整備事務組合　阿河鋭二	東かがわ市	
－	三豊市	230	2005.12.20～2006.3.31	三豊市教育委員会　白川雄一	国・県・三豊市	

調査主体	面　積（㎡）	調　査　期　間	担　　当　　者	費用負担	調　査　の　結　果
県教委	73	17.4.27、17.6.22 17.7.12	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　記録保存予定
県教委	101	17.6.7、8	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　記録保存予定
県教委	190	17.6.9 8.11	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　記録保存予定
県教委	121	17.6.16	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　記録保存予定
県教委	63	17.6.28、29 8.31～9.1	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　一部記録保存
県教委	113	17.7.6、 7	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　記録保存予定
県教委	674	17.7.13～7.15 10.3～10.4	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　記録保存予定
県教委	89	17.7.21、22	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　記録保存予定
県教委	118	17.7.28、29	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　協議中
県教委	42	17.8.9	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認記録保存予定
県教委	388	17.9.26～9.27、 10.19～24	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認記録保存予定
県教委	38	17.10.6	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵状況確認　保護措置終了
県教委	44	17.10.25	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵状況確認　一部保護措置終了
県教委	146	17.10.28～10.29	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵状況地確認
県教委	78	17.11.16～11.18	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　現状保存予定
県教委	89	17.12.19～12.22	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認　現状保存予定
県教委	20	18.1.18～1.20	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵状況確認　保護措置終了
県教委	41	18.2.8～2.10	文化行政課 信里芳紀	国・県	包蔵地確認されず

香川県埋蔵文化財センター

番号	名　　称	所　在　地	原　　因	原　因　者
19	丸亀町地区	高松市丸亀町	高松市丸亀町商店街Ａ街区第一種市街地再開発事業	高松丸亀町商店街Ａ街区市街地再開発組合
20	兵庫町地区	高松市兵庫町	高松兵庫町湊海運ビル新築工事	湊海運株式会社
21	多肥上町地区	高松市多肥上町	衣料品販売店舗新築	株式会社　しまむら
22	丸の内町地区	高松市丸の内町	大和生命ビル解体工事	株式会社　合田工務店
23	三谷地区	高松市三谷町	遊戯施設建築工事	株式会社　ポジション
24	松縄町地区	高松市松縄町	高松市教育委員会	高松市教育委員会
25	高松町地区	高松市高松町	古高松地区コミュニティセンター（仮称）建築工事	高松市
26	松縄町地区	高松市松縄町	新設第一小中学校（仮称）建設工事	高松市教育委員会
27	神内城跡	高松市木太町	ガソリンスタンド建設	出光興産株式会社四国支店
28	寿町地区	高松市寿町	香川トヨタモータープール改修工事	香川トヨタ自動車株式会社
29	扇町地区	高松市扇町	都市計画道路兵庫町西通町線	高松市都市開発部都市計画課
30	多肥上町地区	高松市多肥上町	電器店建設	株式会社ビック・エス
31	多肥上町地区	高松市多肥上町	フィットネスクラブまちけん多肥店増築工事	株式会社　象企画
32	由良地区	高松市由良町	携帯電話用基地局建設	株式会社エヌ・ティ・ティドコモ四国
33	多肥下町地区	高松市多肥下町	店舗新築工事	株式会社アルペン
34	香西東地区	高松市香西東町	都市計画道路郷東檀紙西線街路事業	高松市都市開発部都市計画課
35	桜町地区	高松市桜町	造成工事	穴吹興産株式会社
36	丸の内町地区	高松市丸の内町	店舗建設	木野戸秀行
37	大手町地区	丸亀市大手町三丁目	土地造成	丸亀市教育委員会
41	大妻田地区	丸亀市綾歌町栗熊西字大妻田	宅地造成	宮武恭子
42	北池下地区	丸亀市栗熊東字北池下	店舗用駐車場用地造成	入屋不動産
45	柞原西村遺跡	丸亀市柞原町字下久保	共同住宅建設	横井正
46	中の池遺跡	丸亀市金倉町	共同住宅建設	株式会社カワサキライフコーポレーション
47	北池下地区	丸亀市綾歌町栗熊東字北池下	食品工場建設に伴う農地開発	入屋不動産
48	金倉地区	丸亀市金倉町字道上	個人住宅建設	直井秀信
49	北池下地区	丸亀市綾歌町栗熊東字北池下	駐車場用地造成	小嶋興子
50	府中地区	坂出市府中町本村上所	ポンプ場施設更新工事	坂出市水道局
51	上吉田地区	善通寺市上吉田町七丁目	個人住宅建設	横田　隆文
52	西村地区	綾歌郡綾南町大字陶	店舗建設	堀　勝
53	カンカン山古墳群	木田郡三木町大字上高岡字諏訪	無線中継所建設	株式会社エヌ・ティ・ティドコモ四国
54	兎子山遺跡	綾歌郡国分寺町新名	無線中継所建設	株式会社エヌ・ティ・ティドコモ四国

調査主体	面積(㎡)	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
高松市教育委員会	30	17.4.1～17.4.15	高松市教育委員会 大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	320	17.5.11～17.5.12	高松市教育委員会 大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認。記録保存
高松市教育委員会	80	17.6.8	高松市教育委員会 大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認。記録保存
高松市教育委員会	930	17.6.13～17.6.28	高松市教育委員会 大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	257	17.7.16～17.7.22	高松市教育委員会 川畑　聰	国・県・市	包蔵地確認。記録保存
高松市教育委員会	13	17.8.3	高松市教育委員会 川畑　聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	60	17.8.4	高松市教育委員会 川畑　聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	24	17.8.8	高松市教育委員会 川畑　聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	38	17.9.8	高松市教育委員会 川畑　聰	国・県・市	包蔵地確認。記録保存
高松市教育委員会	80	17.10.12～17.10.13	高松市教育委員会 小川　賢	国・県・市	包蔵地確認。記録保存
高松市教育委員会	88	17.10.26～17.11.10	高松市教育委員会 川畑　聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	300	17.10.26～17.10.27	高松市教育委員会 大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認。記録保存
高松市教育委員会	62	17.10.27～17.10.31	高松市教育委員会 小川　賢	市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	30	17.12.26	高松市教育委員会 大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	40	18.1.11	高松市教育委員会 川畑　聰　渡邊　誠	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	92	18.1.16～18.1.17	高松市教育委員会 川畑　聰　渡邊　誠	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	96	18.3.8～18.3.9	高松市教育委員会 川畑　聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会	100	18.3.22	高松市教育委員会 大嶋和則	市	包蔵地確認されず
丸亀市教育委員会	75	17.8.1～17.8.3	丸亀市教育委員会 東　信夫	市	包蔵地確認。
丸亀市教育委員会	237	17.8.31～17.9.2	丸亀市教育委員会 東　信夫　近藤武司	国・市	包蔵地確認。現状保存。 一部工事立会
丸亀市教育委員会	93	17.11.14～17.11.15	丸亀市教育委員会 東　信夫　近藤武司	国・市	包蔵地確認。現状保存。 一部工事立会
丸亀市教育委員会	50	17.10.26	丸亀市教育委員会　東　信夫 近藤武司　大野宏和	市	包蔵状況確認。一部工事立会
丸亀市教育委員会	282	17.8.30、17.10.19	丸亀市教育委員会　東　信夫 近藤武司　大野宏和	市	包蔵状況確認。一部工事立会
丸亀市教育委員会	75	17.11.15～11.16	丸亀市教育委員会 東　信夫　近藤武司	国・市	包蔵地確認されず
丸亀市教育委員会	7	18.3.28	丸亀市教育委員会 近藤武司	市	包蔵状況確認。一部工事立会
丸亀市教育委員会	120	18.3.14～18.4.13	丸亀市教育委員会 近藤武司	市	包蔵状況確認。一部工事立会
坂出市教育委員会	13	18.5.23～18.6.3	坂出市教育委員会 増田鉄平	市	包蔵状況確認
善通寺市教育委員会	12	17.9.22	善通寺市教育委員会 渡邉淳子	市	包蔵地確認されず
綾南町教育委員会	48.3	18.4.13	綾南町教育委員会 津村	町	包蔵状況確認。一部工事立会
三木町教育委員会	47.5	17.10.14～ 17.10.24	三木町教育委員会 石井健一	町	包蔵状況確認。工事立会。
国分寺町教育委員会	7	17.12.5～17.12.6	国分寺町教育委員会 渡邊　誠	町	包蔵状況確認。工事立会。

（6）埋蔵文化財現地踏査・立会の状況

番号	位　　置	原　　因	事　業　主　体	事業面積（㎡）	調査内容
1	三豊郡大野原町	水谷川砂防工事	河川砂防課	500	立会調査
2	高松市木太町	都市計画道路三谷福岡線福岡三谷線　道路改築工事	都市計画課	32,000	分布調査
3	観音寺市	丸亀詫間豊浜線（観音寺工区）道路整備工事	道路建設課	12980	分布調査
4	坂出市・綾歌郡国分寺町	国分台演習場	善通寺業務隊	－	立会調査
5	東かがわ市引田	県道徳島引田線	道路建設課	5440	分布調査
6	仲多度郡多度津町西白方	県道丸亀詫間豊浜線（多度津西工区）	道路建設課	70000	分布調査
7	丸亀市津森町	県道多度津丸亀線	道路建設課	9,600	分布調査
8	綾歌郡国分寺町	国分台演習場	善通寺業務隊	－	立会調査
9	善通寺市木徳町	県道原田琴平線道路改修事業	道路建設課	1100	立会調査
10	丸亀市	古子川河川改修	河川砂防課		立会調査
11	丸亀市綾歌町	県道岡田善通寺線	道路保全課	3000	立会調査
12	三豊郡仁尾町	県道大浜仁尾線（家の浦工区）道路改修工事	道路建設課	20,000	分布調査
13	小豆郡土庄町	県道土庄内海線道路改修事業（小部工区）	道路建設課	500	分布調査
14	坂出市西庄町	国道11号西庄オフランプ建設	国土交通省香川河川国道事務所	6,000	分布調査
15	丸亀市綾歌町岡田	国道32号綾歌バイパス建設	国土交通省香川河川国道事務所	15,500	分布調査
16	丸亀市飯山町	国道438号　道路改修事業（飯山工区）	道路建設課	32,400	分布調査
17	三豊郡仁尾町	県道大浜仁尾線（家の浦工区）道路改修工事	道路建設課	20,000	分布調査
18	丸亀市大手町	高松法務局丸亀支局新営工事	高松法務局	1,632	分布調査
19	高松市木太町	都市計画道路三谷福岡線福岡三谷線　道路改築工事	都市計画課	32,000	分布調査
20	丸亀市田村町	県道高松善通寺線道路改修工事	道路建設課	100	立会調査
21	高松市太田下町	琴電高架橋架設工事	国土交通省香川河川国道事務所	11000	立会調査
22	高松市木太町	都市計画道路三谷福岡線福岡三谷線　道路改築工事	都市計画課	32,000	立会調査
23	東かがわ市引田	県道徳島引田線	道路建設課	5440	立会調査
24	木田郡三木町出作	県営単独緊急整備事業（東讃南部３号－１地区）	農村整備課	220000	立会調査
25	高松市新田町	ため池等整備事業（古高松北部地区・新池）	土地改良課	792	立会調査

調査の原因	調査主体・担当	調査期間	調査結果の概要
千手院経塚隣接地	県教委・ 山下、信里	4.11	埋蔵文化財包蔵地確認されず
木太中村遺跡に隣接	県教委・信里	4.14	試掘調査必要範囲を指示
高屋条里跡に隣接	県教委・信里	4.18	試掘調査必要範囲を指示
国分台遺跡内での工事	県教委・ 山下、信里	4.20	工事方法を確認し、慎重工事を指示
事業面積が広大であるため	県教委・信里	5.11	試掘調査必要範囲を指示
事業面積が広大であるため	県教委・信里	5.11	試掘調査必要範囲を指示
津森位遺跡に隣接	県教委・信里	5.16	試掘調査必要範囲を指示
国分台遺跡内での工事	県教委・ 山下、信里	5.20	工事方法を確認し、慎重工事を指示
木徳下所遺跡に隣接	県教委・信里	5.24	埋蔵文化財包蔵地確認されず
九頭神双子山遺跡	県教委・信里	5.24	埋蔵文化財包蔵地確認されず
岡田神社五輪塔に隣接	県教委・信里	5.30	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・信里	5.31	試掘調査必要範囲を指示
小部浜遺跡に隣接	県教委・信里	6.2	工事立会範囲を指示
事業面積が広大であるため	県教委・信里	6.10	試掘調査必要範囲を指示
事業面積が広大であるため	県教委・信里	6.15	試掘調査必要範囲を指示
東坂元北岡遺跡に隣接	県教委・信里	6.17	試掘調査必要範囲を指示
事業面積が広大であるため	県教委・信里	6.24	試掘調査必要範囲を指示
史跡丸亀城跡に隣接	県教委・信里	6.27	試掘調査必要範囲を指示
木太中村遺跡に隣接	県教委・信里	7.1	試掘調査必要範囲を指示
田村遺跡内の工事	県教委・信里	8.19	遺構・遺物検出。保護措置終了
太田下・須川遺跡内での工事	県教委・信里	17.5.26、17.8.22 17.10.11、17.11.15	遺構・遺物検出。保護措置終了
木太中村遺跡内での工事	県教委・信里	17.9.8	遺構・遺物検出。保護措置終了
川北遺跡に隣接	県教委・信里	17.10.12	埋蔵文化財包蔵地確認されず
野倉２号墳に隣接	県教委・信里	17.10.14	埋蔵文化財包蔵地確認されず
小山・南谷遺跡に隣接	県教委・信里	17.11.22	埋蔵文化財包蔵地確認されず

番号	位　　置	原　　因	事　業　主　体	事業面積（㎡）	調査内容
26	東かがわ市白鳥	引田線送水管布設工事（第２工区－13区）	香川県水道局	932	立会調査
27	仲多度郡琴南町造田	県道府中琴南線交通安全施設工事	道路保全課	800	立会調査
28	丸亀市津森町	県道多度津丸亀線緊急地方道路整備工事（丸亀工区）	道路建設課	81	立会調査
29	山本町辻山本西	ため池等整備事業（南池）	土地改良課	3276	立会調査
30	観音寺市高屋町	県道丸亀詫間豊浜線（観音寺工区）緊急地方道路整備工事	道路建設課	160	立会調査
31	善通寺市善通寺町	県営農村振興統合事業（ぜんつうじ地区）水辺環境整備（大池）	農村整備課	2000	立会調査
32	内海町神懸通	内海ダム再開発事業	河川砂防課	－	分布調査
33	三木町井上	三木北部地区１号集落道路工事	土地改良課	1330	立会調査
34	宇多津町平山	平山(1)地区急傾斜地崩壊対策	河川砂防課	2500	立会調査
35	満濃町公文	平成17年度予防治山事業	みどり整備課	300	立会調査
36	綾南町小野	遺跡台帳及び遺跡地図の整備	－	－	分布調査
37	小豆郡内海町岩谷	遺跡台帳及び遺跡地図の整備	－	－	分布調査
38	三木町上高岡	遺跡台帳及び地図の整備	－	－	分布調査
39	多度津町青木	県道多度津善通寺線交通安全施設整備工事	道路保全課	300	立会調査
40	坂出市神谷町	国分台演習場における外柵及び門の設置	陸上自衛隊善通寺駐屯地業務隊	20	立会調査
41	丸亀市津森町	県道多度津丸亀線緊急地方道路整備工事（丸亀工区）	道路建設課	300	立会調査
42	綾南町陶	店舗新築工事に伴う確認調査	綾南町教育委員会	48.3	立　　会
43	直島町喜兵衛島	護岸工事の完成確認	直島町		分布調査
44	坂出市神谷町、国分寺町国分	訓練施設構築	陸上自衛隊第２混成団	3075	分布調査
45	綾南町	北条池改修建設工事	香川農地防災事業所	57,000	分布調査
46	琴平町五条	琴平高校仮設校舎設置	香川県立琴平高等学校	475	分布調査
47	高瀬町下麻	遺跡整備に伴う発掘調査	高瀬町教育委員会	359	視　　察
48	東かがわ市松原	公衆トイレの設置	県環境・水政策課自然保護室	85	工事立会
49	さぬき市津田町	文化庁調査官来所	さぬき市教育委員会	337	視　　察
50	琴南町造田	文化庁調査官来所	琴南町教育委員会	600	視　　察

調査の原因	調査主体・担当	調査期間	調査結果の概要
城泉遺跡内の工事	県教委・信里	17.11.22	包蔵状況確認。保護措置終了
造田遺跡に隣接	県教委・信里	17.11.30	埋蔵文化財包蔵地確認されず
津森位遺跡内の工事	県教委・信里	17.12.2	遺構・遺物検出。保護措置終了
樫谷窯跡に隣接	県教委・信里	17.12.14	埋蔵文化財包蔵地確認されず
高屋条里遺跡内での工事	県教委・ 信里、山下	18.1.10、18.1.13	遺構・遺物検出。保護措置終了
古墳に隣接	県教委・信里	18.1.17	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・ 信里、山下	18.1.31	試掘調査必要範囲を指示
始覚寺跡に隣接	県教委・信里	18.2.3	埋蔵文化財包蔵地確認されず
聖通山城跡に隣接	県教委・信里	18.2.6	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・ 山下、信里	17.5.26、7.8、10.19、 11.24、12.16	埋蔵文化財包蔵地確認されず
遺跡台帳及び地図の整備	県教委・ 山下、信里	18.1.27	－
遺跡台帳及び遺跡地図の整備	県教委・ 山下、信里	18.1.24	包蔵地確認、新規登載。
遺跡台帳及び地図の整備	県教委・信里	18.2.6	包蔵地内容変更
舟塚に隣接	県教委・信里	18.2.8、2.27	埋蔵文化財包蔵地確認されず
国分台遺跡内での工事	県教委・ 山下、信里	18.3.2、3.3、3.6、 3.7、3.15	遺構・遺物検出。保護措置終了
津森位遺跡に隣接	県教委・信里	18.3.2	埋蔵文化財包蔵地確認されず
西村遺跡の範囲内のため	県教委・ 山下、信里	2005.4.13	今後の処理を指示
史跡喜兵衛島製塩遺跡の指定地内のため	県教委・ 山下、信里	2005.4.19	今後の処理を指示
国分台遺跡の範囲内	県教委・ 山下、信里	2005.4.20	今後の保護措置を指示
事業面積が広大であるため	県教委・ 山下、信里	2005.4.20	包蔵地確認されず
本庄城跡の範囲内	県教委・ 山下、信里	2005.4.25	今後の保護措置を指示
タヌキ山古墳の範囲内	県教委・ 山下、信里	2005.4.25	今後の処理を助言
松原遺跡の範囲内	県教委・山下	2005.5.16	保護措置終了
うのべ山古墳の崩落	県教委・山下	2005.5.19	今度の保護措置を助言
中寺廃寺跡の試掘調査	県教委・山下	2005.5.20	今後の保護措置を助言

番号	位　　置	原　　因	事　業　主　体	事業面積（㎡）	調査内容
51	善通寺市南町	善通寺旅団庁舎新設工事	広島防衛施設局	4800	分布調査
52	高瀬町下麻	遺跡整備に伴う発掘調査	高瀬町教育委員会	359	視　　察
53	丸亀市大手町	高松法務局丸亀支局新営工事	高松法務局	1632	分布調査
54	国分寺町国分	電柱の新設	四国電力株式会社	2	工事立会
55	満濃町公文	出土品の発見	個人	－	分布調査
56	土庄町小部	県道土庄内海線歩道工事	香川県小豆総合事務所	1600	分布調査
57	琴平町五条	県立琴平高校仮設校舎建設	香川県立琴平高等学校	475	工事立会
58	善通寺市南町	善通寺旅団庁舎新設工事	広島防衛施設局	4800	分布調査
59	豊浜町	姥ヶ懐池改修工事	香川農地防災事業所	－	分布調査
60	善通寺市南町	善通寺旅団庁舎新設工事	広島防衛施設局	4800	分布調査
61	丸亀市大手町	高松法務局丸亀支局新営工事	高松法務局	1632	視　　察
62	丸亀市綾歌町	文化財パトロール	香川県教育委員会	－	視　　察
63	国分寺町国分	個人住宅建設に伴う確認調査	国分寺町教育委員会	240	調査指導
64	満濃町公文	山林災害復旧工事	香川県西部林業事務所	－	分布調査
65	善通寺市稲木町	国道11号坂丸バイパス建設工事	国土交通省香川河川国道事務所	1297	試掘調査
66	さぬき市寒川町	県立石田高校造園実習棟建築	香川県教育委員会高校教育課	291	工事立会
67	丸亀市大手町	高松法務局丸亀支局新営に伴う試掘調査	丸亀市教育委員会	1750	視　　察
68	高松市栗林町	栗林公園駐車場整備	観光振興課	－	工事立会
69	満濃町長尾	災害復旧工事	香川森林管理事務所		視　　察
70	山本町辻	県道込野観音寺線緊急地方道路整備事業	香川県西讃土木事務所長	240	工事立会
71	多度津町二面島	箱式石棺の不時発見		－	分布調査
72	満濃町長尾	災害復旧工事	香川森林管理事務所	－	視　　察
73	満濃町公文	山林災害復旧工事	香川県西部林業事務所	－	分布調査
74	三木町上高岡	無線中継所建設	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ四国	700	調査指導
75	三木町鹿庭出作	東讃南部農道建設	香川県東讃土地改良事務所	1740	分布調査

調査の原因	調査主体・担当	調査期間	調査結果の概要
古墳に近接するため	県教委・山下	2005.5.23	包蔵地確認されず
タヌキ山古墳の範囲内	県教委・山下	2005.5.23	今後の処理を助言
丸亀城跡に近接するため	県教委・山下	2005.5.23	試掘調査の範囲を確認
特別史跡讃岐国分寺跡の範囲内	県教委・山下	2005.5.24	保護措置終了
遺跡の発見の可能性があるため	県教委・山下	2005.5.26	包蔵地確認されず
小部浜遺跡の近接するため	県教委・ 山下、信里	2005.6.2	今後の処理を指示
本庄城跡の範囲内	県教委・山下	2005.6.6、 8	保護措置終了
古墳に近接するため	県教委・山下	2005.6.8	包蔵地確認されず
院内貝塚に近接するため	県教委・山下	2005.6.21	今後の処理を指示
古墳に近接するため	県教委・山下	2005.6.28	包蔵地確認されず
試掘調査の視察	県教委・山下	2005.6.28	試掘調査状況確認
西長尾城跡	県教委・山下	2005.6.29	異常無し
特別史跡讃岐国分寺跡の範囲内ため	県教委・山下	2005.7.6～8、14、20	今後の調査方法を指導
出土品が確認されているため	県教委・山下	2005.7.8	今後の保護措置を指示
事業面積が広大であるため	県教委・山下	2005.7.14	包蔵地確認されず
石田高校校庭内遺跡の範囲内のため	県教委・山下	2005.7.27、8.5・8・12・19・31	保護措置終了
丸亀城跡に近接するため	県教委・山下	2005.8.2	試掘調査を確認
栗林公園の範囲内	県教委・山下	2005.8.31	保護措置終了
西長尾城跡の範囲内	県教委・山下	2004.9.5	今後の処理を指示
道下遺跡に近接するため	県教委・山下	2004.10.4、 7	包蔵地確認されず
不時発見	県教委・ 山下、信里	2005.10.14	包蔵地確認
西長尾城跡の範囲内	県教委・山下	2005.10.18	今後の処理を指示
出土品が確認されているため	県教委・山下	2005.10.19	包蔵地確認されず
かんかん山古墳群の範囲内	県教委・山下	2005.10.19～21日	今後の処理を指示
不時発見	県教委・山下	2005.10.19～20	今後の処理を指示

番号	位　　置	原　　因	事　業　主　体	事業面積（㎡）	調査内容
76	土庄町伊喜末	いもの「つぼいけ」	個人		分布調査
77	満濃町長尾	災害復旧工事	香川森林管理事務所	－	視　　察
78	高松市屋島東町	公衆トイレの改築	香川県みどり整備課	33	工事立会
79	さぬき市津田	宅地開発	個人		視　　察
80	満濃町長尾	災害復旧工事	香川森林管理事務所	37	工事立会
81	東かがわ市川東	文化財パトロール	－	－	視　　察
82	高松市栗林町	栗林公園駐車場整備	観光振興課	－	工事立会
83	観音寺市観音寺町甲	観音寺駅前交番新築工事	香川県警察本部会計課	140	工事立会
84	高松市屋島東町	電柱の新設等	香川県みどり整備課	－	工事立会
85	さぬき市津田町鶴羽	遺跡整備	さぬき市教育委員会	1000	視　　察
86	満濃町大字羽間字羽間	予防治山事業	香川県西部林業事務所	500	分布調査
87	東かがわ市松原字新町	瀬戸内海国立公園白鳥松原園地の標識の設置及び植栽	香川県環境森林部みどり整備課	55.7	工事立会
88	高松市栗林町１－20－３	栗林公園花園亭改修工事	有限会社花園亭	330	工事立会
89	高松市中山町ほか	遺跡台帳及び遺跡地図の整備	高松市教育委員会	－	分布調査
90	丸亀市金倉町字道上	個人住宅建設	横井和代	8	立会調査
91	丸亀市金倉町字道上	個人住宅建設	山下健志	5	立会調査
92	丸亀市金倉町字道下	店舗建設	金谷ヨシコ	12	立会調査
93	丸亀市柞原町字西村	共同住宅建設	横井正	594	立会調査
94	丸亀市金倉町字道下	個人住宅建設	松浦義雄	352	立会調査
95	丸亀市金倉町字道上	個人住宅建設	直井秀信	7	立会調査

調査の原因	調査主体・担当	調査期間	調査結果の概要
伊喜末遺跡の範囲内	県教委・山下	2005.10.24	包含層確認されず
西長尾城跡の範囲内	県教委・山下	2005.11.7	今後の処理を指示
史跡・天然記念物屋島の範囲内	県教委・山下	2005.11.29、12.5・12,2006.2.23,3.14	包蔵地確認されず
うのべ山古墳の崩落	県教委・藤好、山下	2005.12.1	今後の処置を助言
西長尾城跡の範囲内	県教委・山下	2005.12.14	保護措置終了
原間古墳の範囲内	県教委・山下	2005.12.19	今後の処理を指示
栗林公園の範囲内	県教委・山下	2005.12.19,2006.3.3・14	保護措置終了
白浜法廷跡に近接するため	県教委・山下	2006.1.5	包蔵地確認されず
史跡・天然記念物屋島の範囲内	県教委・山下	2006.1.20・23,2.2・3・14・21	保護措置終了
一つ山古墳の範囲内	県教委・山下	2006.2.3	今後の調査について助言
西山西部古墳群に近接するため	県教委・山下	2006.3.1	包蔵地確認されず
松原遺跡の範囲内	県教委・山下	2006.3.7・17	保護措置終了
栗林公園の範囲内	県教委・山下	2006.3.13	保護措置終了
遺跡台帳及び遺跡地図の整備	高松市教育委員会　川畑　聰	17.12.1、17.12.1	包蔵地確認、新規登載。
中の池遺跡内の工事	丸亀市教育委員会　東　信夫	17.5.17～17.6.23	包蔵状況確認。保護措置終了
中の池遺跡内の工事	丸亀市教育委員会　大野宏和	17.7.20	包蔵状況確認。保護措置終了
道下遺跡内での工事	丸亀市教育委員会　大野宏和	17.8.2	包蔵状況確認。保護措置終了
柞原西村遺跡内での工事	丸亀市教育委員会　東　信夫	17.10.26	遺構・遺物確認。保護措置終了。
道下遺跡内での工事	丸亀市教育委員会　東　信夫	17.6.30、17.10.3	包蔵状況確認。保護措置終了
中の池遺跡内の工事	丸亀市教育委員会　近藤武司	18.3.28	包蔵状況確認。保護措置終了

2．発掘調査の概要

史跡　宗吉瓦窯跡（むねよしがようあと）

1．所　在　地　三豊市三野町吉津
2．調 査 主 体　三豊市教育委員会
3．調 査 期 間　平成17年12月20日
　　～平成18年３月31日
4．調 査 面 積　約358㎡
5．調査担当者　白川雄一
6．調査の原因　三豊市内遺跡発掘調査事業
7．調査結果の概要

第1図　遺跡の位置（「仁尾」）

今年度は、以前から懸案となっていた史跡指定地の北西側に位置する埋葬墓地を廃止し、追加指定範囲を確定させることを主たる目的として調査を実施した。

４トレンチでは、９号窯の窯体は検出されたものの、平成５年度の調査で瓦溜まりが確認され８号窯の存在が推定されていた部分には、窯体が存在しないことが判明した。この瓦溜まりは、位置的に見て窯体群背後から谷筋へ水を迂回させるための溝である可能性もあり、今後の検討が必要である。

４トレンチの北側に近接して設定した5，6トレンチにおいては、焼土と炭層を確認しており、更に別の窯体が存在している可能性も考慮する必要があろう。

北西側の緩斜面に設定した2，7トレンチでは、掘立柱建物を構成する柱穴列を確認した。2，7トレンチ周辺は、以前より瓦窯跡の操業に関連する工房等の存在が以前から想定されていた部分でもあり、掘立柱建物群の帰属時期や広がりについては、今後の調査によって詳細を確認する必要があろう。（白川）

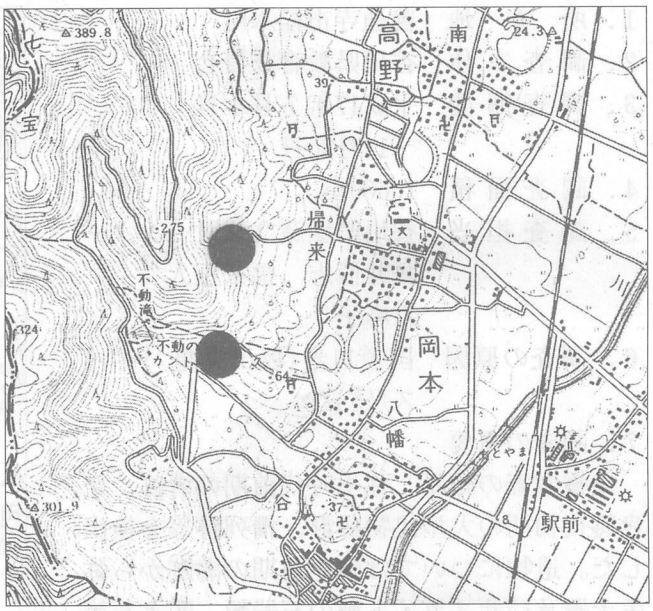
第２図　９号窯窯体検出状況

第３図　２トレンチ掘立柱建物検出状況

岡本帰来遺跡・不動の滝遺跡

1．所　在　地　三豊市豊中町
2．調査主体　豊中町教育委員会
3．調査期間　平成17年10月１日
　　～平成17年12月31日
4．調査面積　620㎡
5．調査主体　豊中町教育委員会
6．調査の原因　県営単独緊急農道整備事業
7．調査結果の概要

岡本帰来遺跡の発掘調査により、中世後半時期の溝状遺構が検出された。遺跡内で検出された主要施設は明治初期であろうと考えられる畑遺構と昭和初期の畑遺構（暗渠施設）である。中世段階の遺物は土師質土器足釜、すり鉢、甕が出土している。

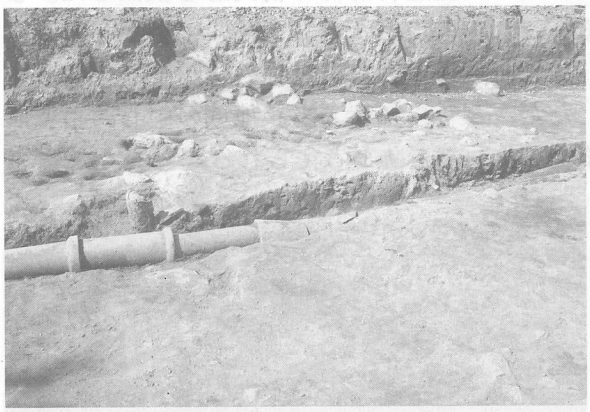


第4図　遺跡の位置（「観音寺」）

不動の滝遺跡においては弥生土器、石器と中世の土師質土器が出土している。遺構は自然流路と考えられる。

8．まとめ

今回の調査原因となった県営単独緊急農道（桑山地区）は当初考えられていた計画路線より高度が上がったために考えられていた遺跡はほとんど外した状態になったものと考えられる。（森）


第５図　岡本帰来遺跡

第６図　不動の滝遺跡

稲木北遺跡

1．所　在　地　善通寺市稲木町
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成17年７月１日
　　～11月30日
4．調査面積　1,600㎡
5．調査担当　香川県埋蔵文化財センター
　　長井博志　福家正人
　　森麻子
6．調査の原因　国道11号(坂出丸亀バイパス)建設

第7図　遺跡の位置(「善通寺」)

7．調査の概要

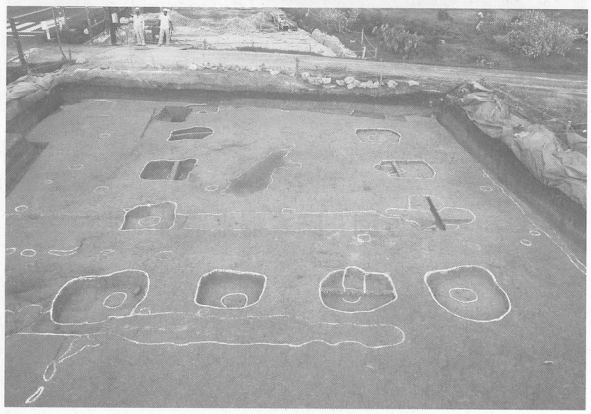
発掘調査の結果、弥生時代前期の溝跡、奈良時代初期の大型建物跡群、柵列跡等を検出した。遺物については弥生前期の溝跡から弥生土器及びサヌカイト製の石器類、叩き石等が出土した。また、奈良時代初期の大型建物跡群、柵列跡からは土師器、須恵器等が少量出土した。

奈良時代初期の遺構には柱穴掘り方の規模が１m前後を測る大型の掘立柱建物跡８棟と、これらを区画する柵列跡２基などがある。これらの建物と柵列は、遺跡周辺で見られる条里型地割と主軸方向をそろえており、計画的な配置をとる。具体的には、東西両端に約60mの距離を隔てて南北方向の柵列が配され、柵列の内部には３棟の建物が左右対称になるように向きを揃えて配置されている。また柵列の外には倉庫と考えられる総柱建物３棟が同様に向きを揃えて配置されている。しかし、出土遺物は少量であり、内容的にも特殊な遺物は見られない。

8．まとめ

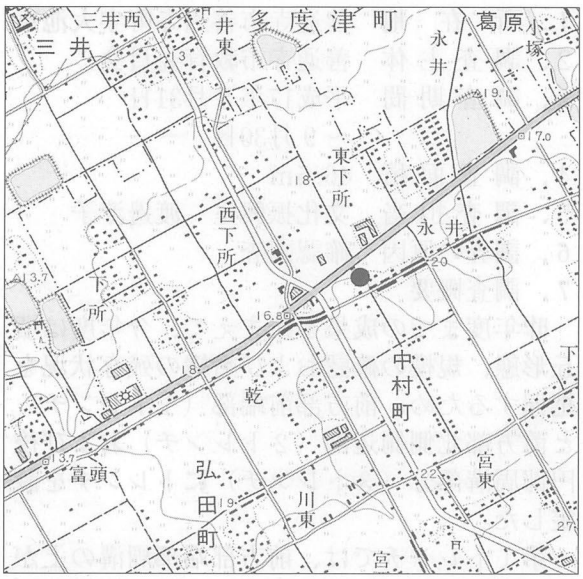
稲木北遺跡では、企画的に配置される奈良時代初期の大型建物跡群と柵列跡を検出した。また、柵列跡の内外では建物群の機能が区分される。これらのことから、遺跡の性格としてまず官衙（関連）遺跡の可能性が考えられる。だが、豪族居宅跡でも左右対称の建物配置を採る事例もあり、その判別は今後検討する必要がある。ただ、どちらにせよ当該地域の中心的指導層に係わる遺跡と考えられ、県内の古代史を考える上で重要な遺跡と考えられる。(長井)

第８図　大型建物跡群


第９図　大型建物跡柱痕検出状況

永井北遺跡（ながいきたいせき）

1．所　在　地　善通寺市中村町
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成17年９月１日
　　～平成18年１月31日
4．調査面積　3,278㎡
5．調査担当　香川県埋蔵文化財センター
　　長井博志　福家正人
　　森麻子
6．調査の原因　国道11号(坂出丸亀バイパス)建設
7．調査の概要



第10図　遺跡の位置(「善通寺」)

発掘調査の結果、弥生時代後期の集落跡、古代末～中世前半の集落跡を確認した。遺物は弥生土器、石器、土師器、須恵器等が出土した。

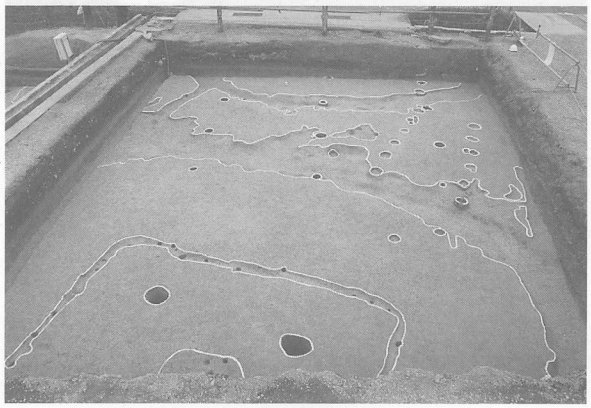
弥生時代後期の集落跡は竪穴住居跡とこれを囲む周溝、掘立柱建物跡などで構成される。竪穴住居跡は１基検出し、床面に貼床を施した上から主柱穴、炉跡、壁溝が掘り込まれている。壁溝の底では径0.1m前後の小ピット群を確認した。これらの間隔は0.3～0.6mを測るが、等間隔に並ぶ箇所も見られ、壁溝内に立てた縦板を固定するための杭跡と考えられる。

古代末～中世前半の集落跡は、遺構の粗密があるものの調査対象地全域で展開し、大きくは古代末（10世紀代）と中世前半（12世紀代～13世紀前半）に区分される。古代末の遺構には掘立柱建物跡１基、柱穴群、条里坪界溝などがある。

中世の遺構には柱穴群、柵列跡、畑跡（＝鋤溝）、土坑墓、坪界溝などがある。このうち柱穴群と畑跡は柵列跡で区画されており、坪界溝で区画された土地の利用状況の一端がうかがえる。また土坑墓には完形の白磁碗が副葬されていた。検出位置は集落縁辺部であり、この集落の居住者が埋葬されたと考えられる。

8．まとめ

弥生時代後期の集落跡で確認された周溝を伴う竪穴住居跡は、多度津町奥白方中落遺跡（弥生中期末～後期前半）等で見られるが、検出事例数は限られることから貴重な資料となった。竪穴住居跡の壁溝底で見られた縦板を固定する杭列は、竪穴住居の内部構造を検討する上で重要な資料と言える。(長井)

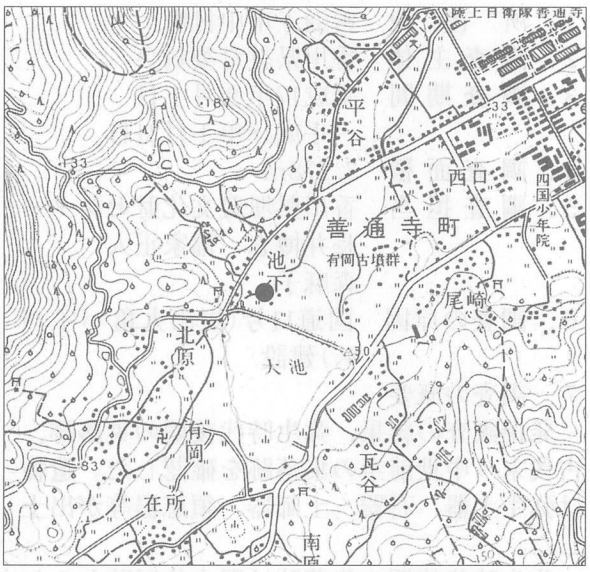

第11図　弥生時代後期の集落跡

第12図　竪穴住居跡と周溝跡

菊塚古墳

1．所　在　地　善通寺市善通寺町字大池東
2．調査主体　善通寺市教育委員会
3．調査期間　平成17年８月31日
　　～９月30日
4．調査面積　46.5㎡
5．調査担当　文化振興室　渡邉淳子
6．調査の原因　確認調査
7．調査概要

昨年度までの成果を踏まえて、今年度は墳丘形態、規模の確認および遺構の残存状況を把握するため、前方部前端部（１トレンチ）と前方部北側側辺部（２トレンチ）および後円部周溝部分（３トレンチ）にトレンチを設定した。



第13図　遺跡の位置（「善通寺」）

第１トレンチでは、前方部端部周溝の上がりが検出されることを期待したが、予想以上に撹乱を受けており周溝規模を確定させることが出来なかった。後円部周溝については第３トレンチの調査で東側の上がりを確認した。平成16年度の調査成果と合わせると、後円部周溝幅は10.3mとなる。前方部端部第１トレンチ北側（平成15年度調査）で検出した周溝幅は5.5mであり、前方部と後円部で周溝幅に開きがみられる。これは前方部が後世の削平や撹乱を受けており、古墳築造時の遺構面がかなり削平されている事が起因していると推測される。そのため前方部の周溝も本来は10m近くあった可能性がある。

また第３トレンチで周堤帯は確認されなかった。第２トレンチでは平成15年度調査第１トレンチに続く前方部端部墳丘盛土のラインを検出することが出来た。

8．まとめ

前方部は後世の削平をかなり受けており確実な見解は得られなかったが、墳丘の規模についておおよその数値を提示することが出来た。確認調査という性格上全面的な調査は行っていないため、今後史跡整備に向けた調査で検討する点も多い。特にくびれ部の位置は現状では確認することが困難であるし、墳丘の築造構造や石室前庭部に関しても今後確認する必要がある。

（渡邉）

第14図　第２トレンチ

第15図　第３トレンチ

樽池西手山頂墳3号

1．所　在　地　善通寺市善通寺町字伏見奥
2．調査主体　善通寺市教育委員会
3．調査期間　平成17年11月1日
　　～12月1日
4．調査面積　17.8㎡
5．調査担当　文化振興室　渡邉淳子
6．調査の原因　確認調査
7．調査結果の概要

第16図　遺跡の位置(「善通寺」)

樽池西手山頂墳3号は大麻山から北西に派生する尾根上に立地する群集墳のひとつである。昨年度調査で古墳時代終末期の無袖形横穴式石室をもつ円墳であることが解っている。

今年度は前庭部および墳丘裾・周溝の調査を行った。前庭部は床面で墓道を検出した。幅は約0.7mで開口部より1m付近で東に折れる。深さは最深部で0.15mを測る。墓道埋土上面は安山岩の剥片が散乱している。遺物は床面および床面上層堆積土を中心に散乱した状況で出土した。

墳丘裾は、石室中軸線北側延長部分に北トレンチ、仕切石横断西側延長部分に西トレンチを設定した。土層は4層に大別される。第1層は、表土である。第2層は、周溝埋土である。北トレンチ周溝は、奥壁より北に6mから12mの区間基盤層を掘り込む。幅は6mを測り、最深部は奥壁より北に10mの地点で0.6mを測る。埋土は数時期にわたり埋没したと考えられる。西トレンチ周溝は、中軸線より4.2m西の地点で掘り込みが始まる。周溝の深さは0.40mである。埋土は墳丘側から周溝へ向かって数回にわたり堆積している。第3層は墳丘盛土である。水平堆積しており締まりは悪い。第4層は基盤層である。暗褐色砂質土で非常に良く締まる。

8．まとめ

2ヶ所のトレンチ調査で、墳丘の規模は約11m、周溝の幅は6mを測る円墳であることが明らかとなった。(渡邉)

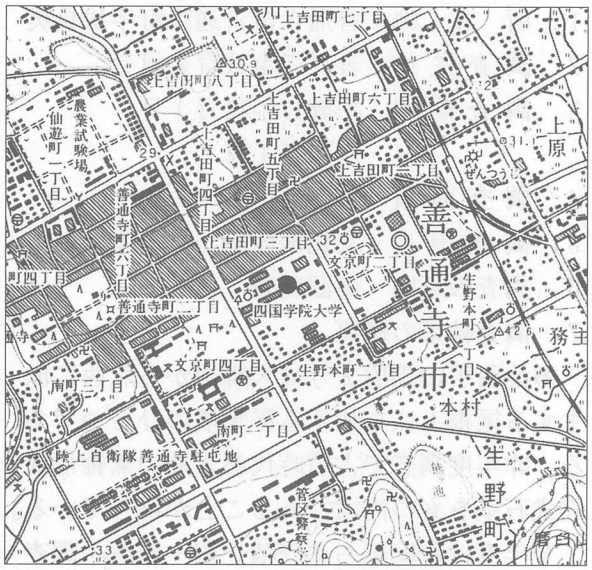
第17図　北トレンチ全景

第18図　西トレンチ全景

四国学院大学構内遺跡

1．所　在　地　善通寺市善通寺町
　　3－2－1
2．調査主体　善通寺市教育委員会
3．調査期間　平成17年8月11日
4．調査面積　約65㎡
5．調査担当　文化振興室　渡邉淳子
6．調査の原因　ＬＡＮケーブル設置
7．調査結果の概要

調査地は四国学院大学構内南東隅に該当する。大学構内は、平成13・14年度の調査（グラウンド部分）で古代の集落跡を検出しており、今回の調査区は前調査区から50m程離れた北東に位置している。四国学院大学正門から約100m南までの構内道路部分である。



第19図　遺跡の位置（「善通寺」）

正門から仰光館・友愛館の間にかけて、南北（第１トレンチ）・東西方向（第２トレンチ）にそれぞれ２か所掘削をした。第１トレンチは３層に分層できる。第１層は表土である。第２層は灰褐色砂質土で土器を含む遺物包含層。第３層は暗茶褐色粘砂土で、須恵器・土師器を多く含む。全面に水平に堆積しており、古代の遺物包含層または溝等の遺構と考えられる。トレンチ南側第３層上面でピットを検出した。

第２トレンチは３層に分層できる。第１層は表土である。第２層は灰褐色砂質土で、遺物は検出されず均一な堆積層である。第３層は淡茶褐色粘砂土で土器を含む。古代の遺物包含層である可能性が高い。トレンチ東側第３層上面からは、隅丸方形と推定される土坑が検出された。土坑埋土は暗茶褐色粘砂土で、第１トレンチ第３層と類似している。

8．まとめ

包含層及び遺構を検出した。出土した土器は古代の須恵器・土師器であることから、平成14年度に調査した集落遺跡の範囲が今回調査区まで及ぶ可能性が高い。掘削深度は、平成14年度調査遺構面の深度と同じである。土層の状況より第３層が平成14年度調査の遺構面に相当するか、若しくは第３層のさらに下層に平成14年度調査の遺構面が存在すると推測できる。（渡邉）

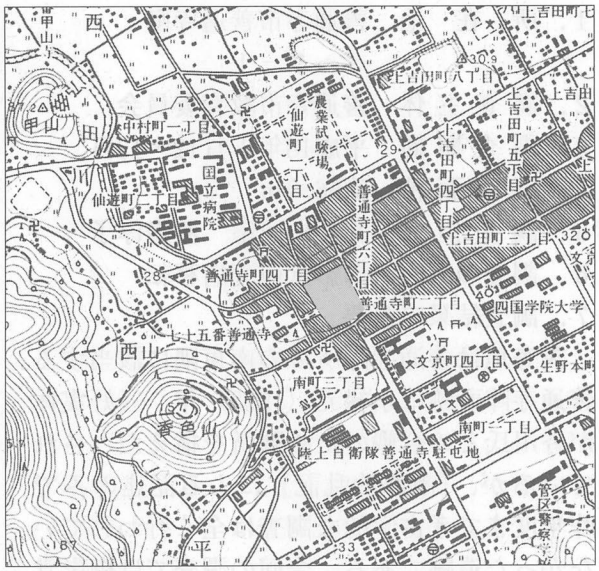
第20図　第１トレンチ

第21図　第２トレンチ土坑検出状況

善通寺旧境内

1．所　在　地　善通寺市善通寺町３－５
2．調査主体　善通寺市教育委員会
3．調査期間　平成18年１月10～12日
4．調査面積　30.1㎡
5．調査担当　文化振興室　渡邉淳子
6．調査の原因　構造物建設
7．調査結果の概要

総本山善通寺は、平成18年に創建1200年を迎える。それに伴い境内整備が実施されており、昨年度までに境内四周塀沿い等の確認調査を行っている。今年度は五重塔ライトアップの証明設備建設予定地において確認調査を実施した。調査区は五重塔周辺に合計６ヶ所トレンチを設定した。



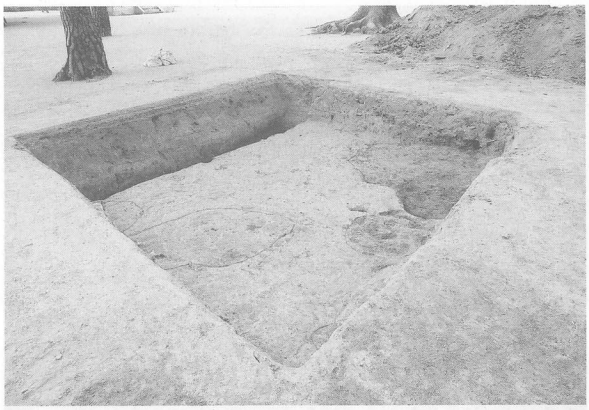
第22図　遺跡の位置(「善通寺」)

五重塔西側の１・２トレンチおよび五重塔北側の５トレンチでは、善通寺旧境内に関連する遺構は検出されなかったものの基盤層（黄褐色砂質土）を検出した。おそらくこの層が善通寺旧境内期（古代）の遺構面になると推定される。また旧境内北部の６トレンチでは、弥生時代の包含層を検出した。

遺物は、撹乱および包含層より大量の近世・近現代の瓦・土器の他、少量の古代～中世の瓦・縄文土器が出土した。平成15・16年度に検出した旧境内北部の弥生時代包含層と同一層であると考えられる。

8．まとめ

今回の調査では遺構面と推定される基盤層は検出したものの、善通寺旧境内に伴う遺構は検出されなかった。中世期の伽藍配置図をみても、トレンチ設定場所には建物の記載がないことから当該地は建物が建立されなかった可能性が高い。また旧境内北部に弥生時代の包含層が存在することが確定的になった。さらに撹乱土からではあるが縄文土器が出土しており、縄文時代から当地に人為的な営みがあったことが窺える。（渡邉）



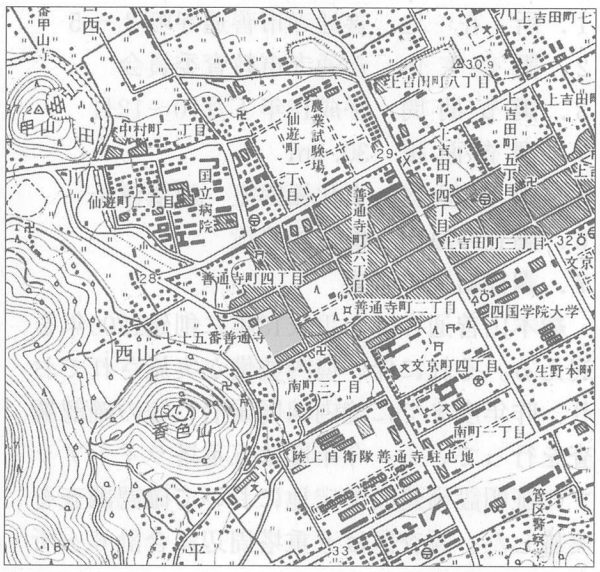
第23図　第１トレンチ全景

第24図　第１トレンチ西壁

善通寺陣所跡（御影堂前売店）

1．所　在　地　善通寺市善通寺町
　　3－3－1
2．調査主体　善通寺市教育委員会
3．調査期間　平成18年1月12・13日
4．調査面積　約56.9㎡
5．調査担当　文化振興室　渡邉淳子
6．調査の原因　御影堂前売店移転
7．調査結果の概要

調査地は善通寺陣所跡の南東隅に該当する。善通寺陣所跡は永禄元（1558）年、三好実休が香川氏との合戦のため陣所を構えたとされているが、『南海治乱記』による記述のみで昨年度まで考古学的な調査は全く行われていなかった遺跡である。今回の調査では御影堂前売店移転予定地に調査区を設定した。



第25図　遺跡の位置（「善通寺」）

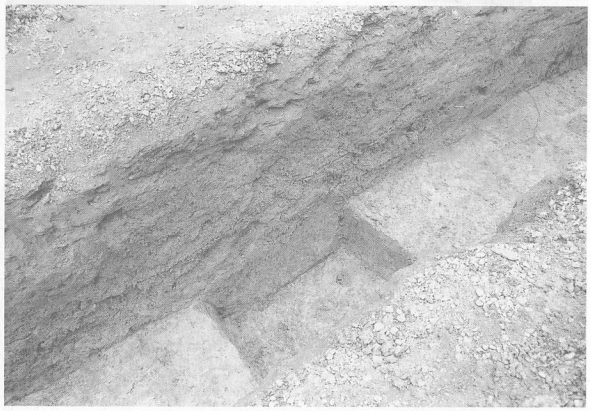
当該地は水道管などの配管が多数あり面的な調査が困難であったため、北・東壁を筋掘りし土層を確認した。基本層序は、表土・攪乱を除くと3層に大別できる。第1層は褐色砂質土である。近代の堆積層で、瓦を含み締まりは悪い。この面で瓦溜りや攪乱が存在する。第2層はにぶい黄褐色砂質土である。同じく近代の堆積層で、土器・瓦・炭を多く含み締まりは悪い。第3層は、褐色粘質土である。基盤層（遺構面）であり、締まりは良い。瓦溜りのピットが検出された以外は明確な遺構は確認されなかった。

遺物は第1・2層および攪乱土・瓦溜りより土器・瓦が出土した。いずれも近世・近現代の所産である。

8．まとめ

調査地は善通寺陣所跡の中心部に該当する。今回の調査区は既に攪乱を多く受けていたため、当初想定していた中世後半の陣所跡に関する遺構や平成15年度調査で検出した古代の溝状遺構に関連する遺構・遺物は発見できなかった。今後周辺の調査事例の増加により、当遺跡の全貌が明らかになることを期待したい。（渡邉）

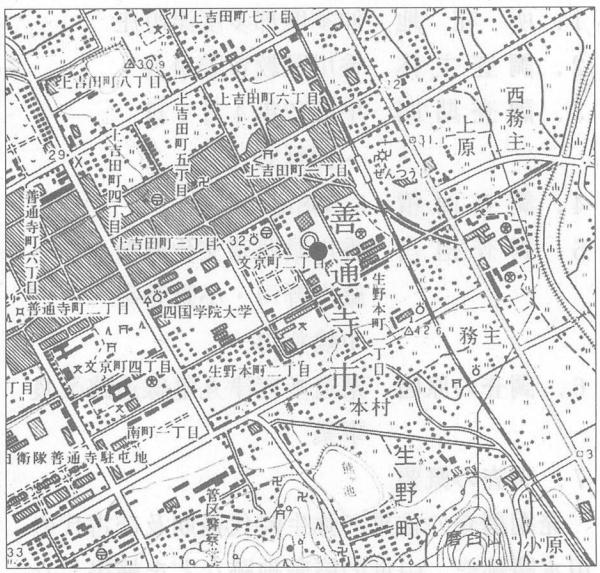
第26図　調査区北壁



第27図　基盤層確認部分

旧善通寺偕行社

1．所　在　地　善通寺市善通寺町
　　2－1－1
2．調査主体　善通寺市教育委員会
3．調査期間　平成17年9月5・6日
4．調査面積　約1.7㎡
5．調査担当　文化振興室　渡邉淳子
6．調査の原因　確認調査
7．調査結果の概要



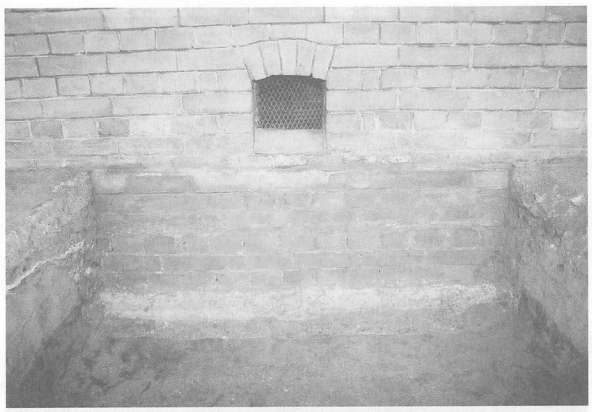
第28図　遺跡の位置(「善通寺」)

調査地は、重要文化財旧善通寺偕行社である。この建物は、明治36年（1903年）旧陸軍現役将校の親睦団体である「偕行社」の集会所として建設された。ルネッサンス様式を基調とした端正なつくりで、木造平屋建て寄棟造りの屋根を持ち、切妻造りの玄関ポーチが取り付く。戦後、内部は改変・改修を受けているが、外観は明治期の面影を残している。平成13年に重要文化財の指定を受け、現在復元整備を進めている。復元工事にあたり、地下の埋蔵文化財関連遺構の有無を把握するため、確認調査を行った。

土層は3層に分層される。第1層は堆積土である。第2層は、偕行社基礎掘形埋土である。第3層は、偕行社基礎である。トレンチ北西隅で身舎基礎および掘形を、南西部で庇基礎および掘形を検出した。埋蔵文化財関係の遺構・遺物は確認されなかった。身舎基礎はまず掘形を掘り、最下層に「たたき」を敷く。次に約半分の高さまで掘形と基礎設置予定部分との隙間を埋土で埋める。そして基礎設置予定部分に土と石灰・砂を混ぜたもの入れ叩き締める。これが「たたき」の基礎部分となる。その上に煉瓦をイギリス積にする。

8．まとめ

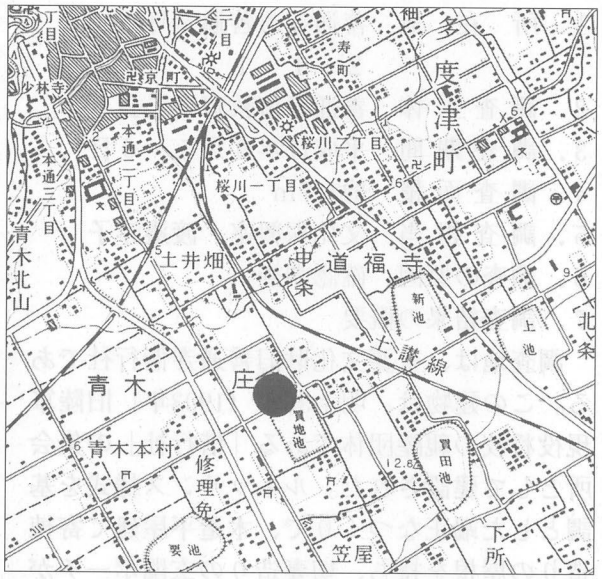
今回の調査では、埋蔵文化財に関連する遺構は確認されなかったが、旧善通寺偕行社の基礎構造が明らかになった。基礎部分には「たたき」工法が使用されている。検出した「たたき」は厚さ0.22mと薄く、硬度も手で強く触れると崩れてしまい堅緻でない。（渡邉）


第29図　調査区北壁

第30図　調査区全景

庄八尺遺跡

1．所　在　地　仲多度郡多度津町庄
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成17年４月１日
　　～10月31日
4．調査面積　5,598㎡
5．調査担当　香川県埋蔵文化財センター
　　蔵本晋司・小野秀幸
　　中嶋将史
6．調査の原因　県道多度津丸亀線道路改良
　　事業
7．調査の概要



第31図　遺跡の位置（「丸亀」）

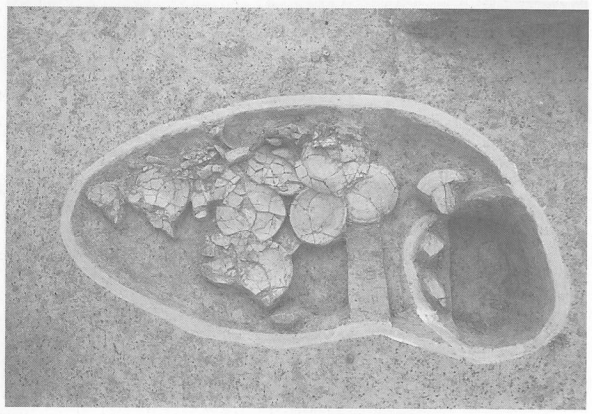
発掘調査の結果、弥生時代後期及び古代の用水路跡や、中世の屋敷地跡などを検出した。

中世の遺構は、ほぼ調査区全域で、掘立柱建物跡70棟以上、土坑跡50以上、井戸跡３、溝跡10以上、地鎮遺構７以上といった多数の遺構を検出した。これらの遺構から、13世紀後半～14世紀前半代と、16世紀後半代の遺物が出土しており、一部重複しながらこれら２時期の屋敷地が所在したものと判断された。出土遺物には、在地産の中世土器類のほかに、青磁や白磁、染付などの輸入磁器、吉備系土師器碗、備前焼甕・擂鉢、和泉型瓦器碗、滑石製石鍋、北宋銭などの搬入遺物が一定量出土している。

8．まとめ

調査地周辺部は、安楽寿院領多度庄の荘園の遺称地とされている。また、遺跡の西を北流する桜川の河口部周辺には、古代多度郡の郡津であり、「兵庫北関入船納帳」にも登場する古代から中世の港津「多々津」が所在した可能性も想定され、当該地域が中世の物流の拠点であったと考えられる。調査結果からは残念ながら、多度庄の存在を具体的に実証する資料は得られなかったが、今後遺構・遺物の整理を進める中で、中世荘園の実態を明らかにしていくことが求められよう。（蔵本）

第32図　中世屋敷地跡全景



第33図　地鎮遺構全景

田村遺跡

1．所　在　地　香川県丸亀市田村町
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成17年４月１日
　　～６月30日
4．調査面積　790㎡
5．調査担当　香川県埋蔵文化財センター
　　西村尋文、古野徳久
　　中里伸明
6．調査原因　県道高松善通寺線道路改修
　　事業

第34図　遺跡の位置（「丸亀」）

7．調査の概要

田村遺跡は田村廃寺の北に広がる、古墳時代末～平安時代頃の集落跡である。平成11年の（財）香川県埋蔵文化財調査センターの調査では、平安時代の釣鐘を鋳造した、全国的にも希少な梵鐘鋳造遺構を検出している。今回の対象地は遺跡の北半部にあたる。調査区は北からⅠ区～Ⅲ区に大きく分け、それを更に８区分の小区画を設定して調査を実施した。現在の建物基礎などによりかなり壊されている箇所があったが、検出した遺構は、Ⅰ区の南半部とⅡ区の北半部の南北38m、東西5.0mの狭い区間で、７世後半～８世紀前半の掘立柱建物跡が10棟、柵列跡１列、柱穴425基、溝跡２条等を検出した。建物跡は互いに重複し、全体が分かるものは皆無であるが、一辺1.2mを測る大型の柱穴が確認できることより、比較的大型の建物跡が含まれている可能性が高い。

8．まとめ

検出した建物跡の主軸方位を大別すれば、①北へ向く建物と②西へ約20°振る建物とに区分できる。出土遺物と建物跡の切り合いを考慮すれば、前者より後者へ変化しているものと考えられる。なお、②の方位は遺跡周辺の地割り方向に類似しており、①から②の方向に向きを変える現象は、周辺域の地割り方向の形成時期を検討するうえで重要な成果になった。（西村）

第35図　Ⅱ区掘立柱建物跡群検出状況

第36図　柱穴土層断面

中の池遺跡

1．所　在　地　丸亀市金倉町道上平池堤北側
2．調査主体　丸亀市教育委員会
3．調査期間　平成17年12月12～14、19～22、27、平成18年1月5日
4．調査面積　約270㎡
5．調査担当者　丸亀市教育委員会
東信男　近藤武司
大野宏和　北山多佳子
枝島佳奈
6．調査の原因　水路改修工事
7．調査結果の概要

第37図　遺跡の位置（「丸亀」）

平池北堤の水路改修工事に伴い立会を行った。立会では、堤中央部からやや西側と東端で溝跡等の遺構を確認、中央部での遺構の検出はなかった。当該地は、中の池遺跡第12次調査第2調査区（以下　調査）として発掘調査した場所及び隣接地である。調査では、北堤中央部からやや西側にかけて弥生時代前期から中期初頭の土器を含む環濠SD220（幅約3.9～4.4m、深さ約1.4m）や柱跡、土こう等を検出している。

立会の成果として、環濠SD220が既存水路の下部にも残り、南へ弧を描きながら延びていることを確認できた。この堆積状況は調査と同様であるが、溝跡の底部堆積層である暗灰色粘土や砂層を含む暗灰黄色粘質土が南壁土層より段状に約20cm深く掘り込まれており、杭跡と思われる木片や板材も出土している。また、その上層にある黒色砂混じりシルト層が、中央部で底部堆積層を掘り込む形で深く掘り込まれていた。遺物は土器片やサヌカイト片等であり、調査同様に各層から、弥生時代前期の土器が出土している。

8．まとめ

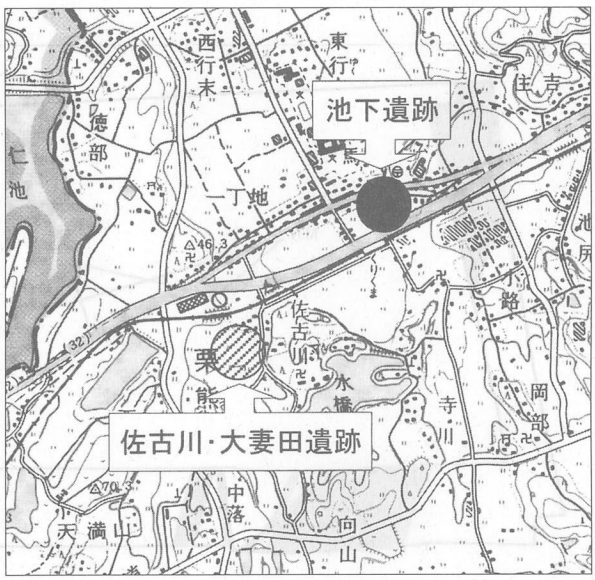
立会では、平池北堤中央部やや西よりで確認された環濠SD220の延長する方向を確認した。中の池遺跡は、弥生時代前期～中期初頭にかけて、広範囲に環濠をもつ居住域が所在する遺跡である。（東）

第38図　環濠杭検出（西から）

第39図　環濠検出（西から）

池下遺跡

1．所　在　地　丸亀市綾歌町栗熊東字北池下470番１、474番１、475番、476番１、477番２
2．調査主体　丸亀市教育委員会
3．調査期間　平成17年11月14日～16日
　　平成18年３月14日
　　平成18年４月13日
4．調査面積　1,910㎡
5．調査担当者　丸亀市教育委員会　東信男
　　近藤武司　大野宏和
6．調査の原因　駐車場・工場造成
7．調査結果の概要



第40図　遺跡の位置(「丸亀」)

当該調査は、綾歌町栗熊東字北池下地区で計画された２件の開発に伴い実施した試掘調査及び工事立会によるものである。当該地の南方に接続する国道32号綾歌バイパス建設時には、中世集落を内容とする池下遺跡が発見されており、当該地については、密度は薄くなるものの関連する遺跡の展開が予想されることから試掘調査を実施した。

調査の結果、西側に位置する工場建設用地については、極微量の遺物を土中に包含するものの全域において遺構の検出はなかった。

東側に位置する駐車場建設用地については、擁壁による掘削を受ける部分での調査とした。南西から北東に延びる大小の溝を６条検出した。それぞれを見ると、全て耕作土直下の整地土下で遺構の検出があるが、埋土に差異があることなどから本来の遺構面は既に削平等によって現存していないことが伺える。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器とまばらであり出土量が少ないことと本来の遺構面が確認できないことから、時代の特定は難しいが、北端に位置する幅４ｍ程のものを除くと残りは古代から中世に属するものと考えられる。北端の大溝は、旧流路か谷地形の底部分であることも考えられるが弥生前期頃に属すると思われる。

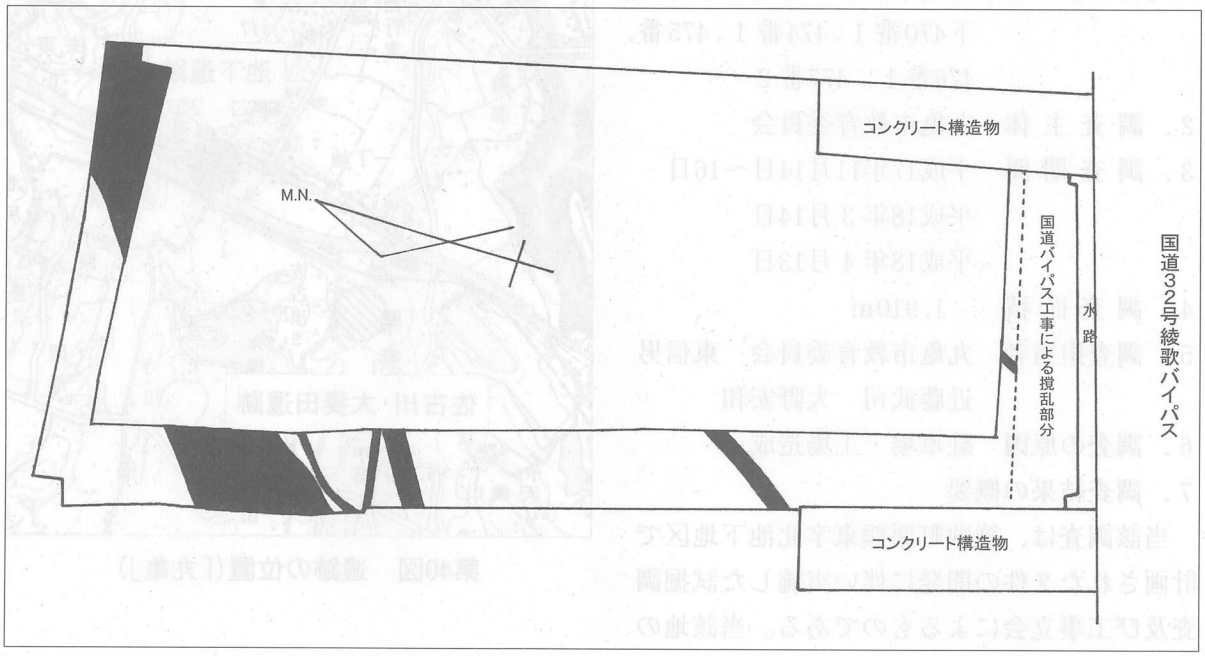
8．まとめ

国道32号綾歌バイパス建設事業に伴い発見された池下遺跡の西半部で北に隣接する区域で２箇所の試掘調査を行った。

西側に位置する調査区では、緩やかな谷地形を確認したものの遺構が伴わず池下遺跡に関連する遺跡を確認するにはいたらなかった。東側の調査区では、溝遺構を６条確認することができた。包含遺物が少なく詳細については不明瞭であるが弥生時代から中世の広範囲に機能していた区域、若しくは上流域に当該期の遺跡が展開していることが読み取れる。当該地から北東の程近いところには東大束川が流れており、旧来から水量のある流域であったと考えられることから、恐らく今回の調査区域は集落遺跡の縁辺部にあたり、遺跡本体は南部に展開している

ものと推定される。(近藤)

(調査成果の詳細は『丸亀市内遺跡発掘調査報告書　第１集』(2006.3　丸亀市教育委員会)にて報告)



第41図　東側調査区遺構配置図（S＝1:250）

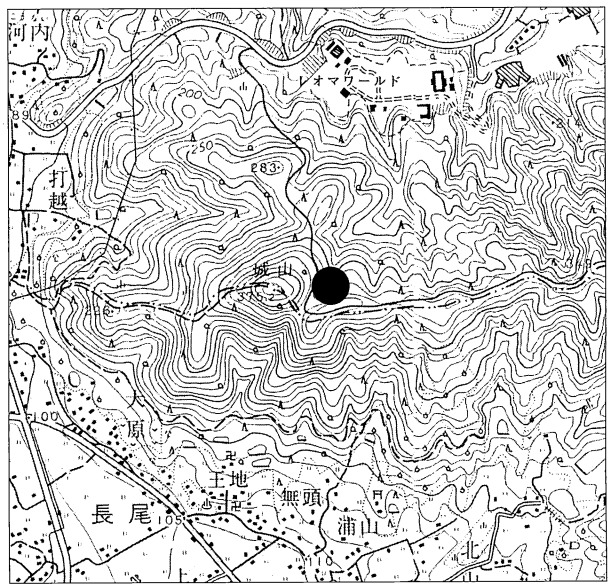
第42図　溝検出状況

第43図　溝完掘状況

西長尾城跡（にしながおじょうあと）

1．所　在　地　丸亀市綾歌町岡田上字国吉
　　2312番10、2312番13
2．調 査 主 体　丸亀市教育委員会
3．調 査 期 間　平成17年12月１日
　　～平成18年２月28日
4．調 査 面 積　約6,500㎡
5．調査担当者　丸亀市教育委員会
　　近藤武司
6．調査の原因　遺構分布確認
7．調査結果の概要

当該調査は、平成８年度から継続的に実施しているもので、丸亀市南端でまんのう町と境を共にする城山に所在する中世山城として著名な西長尾城の遺構分布確認調査を実施した。



第44図　遺跡の位置（「丸亀」）

今年度の調査は、主郭部南東の鞍部から北東に下る谷部分を対象に行った。この地点には以前実施した縄張り調査によってダム地形や連続する竪堀等が確認されている。

調査の結果、ダム地形部分については、平成16年10月20日の台風23号接近による豪雨によって南東に位置する谷の崩落によってそのほとんどが土砂により埋没していた。しかしながら、その西斜面には主郭部の連郭式郭列最下部の堀切から連続するであろう竪堀を確認することができた。縄張り調査で報告されているように連続する３条の竪堀であった。時間等の制約により全体の確認にはいたらなかったが、谷底のダム地形に到達する部分から上位５ｍ程の状況は確認できた。天幅約２～３ｍで約３ｍ間隔の並行配置となっている。

また、東に位置する南北軸の尾根上には、２筋の連続する小削平地が設けられていることが確認できた。今回の調査では西側の配列部分のみの確認となったが、その南西側面には並行するような竪堀が配置されている。

8．まとめ

昨年度までの調査では、西長尾城及び国吉城の主郭部分の確認が主であったが、今回はそれらの側斜面に展開する遺構の分布状況確認調査へと移行した。

主郭部分は、連郭式郭列や巨大な削平地で構成されており、各遺構規模がそれぞれ比較的大きなもので土塁や枡形虎口などと併せることによりその機能を強化しているものである。

今回の調査で確認した箇所については、それらとは様相を異にしており削平地もかなり小規模であるが多段に連続することやその下位にはダム地形を設け水源として機能させていることから考えると、山に入った時の生活拠点として利用されていたことが想定される。

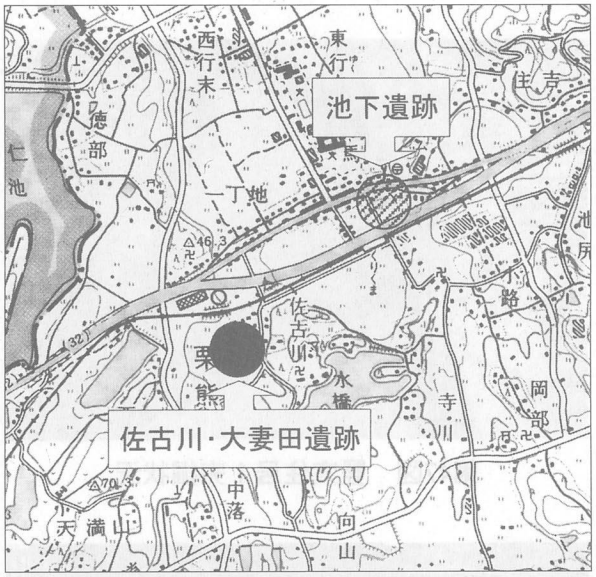
次年度以降についても、継続して調査を進めていき早期に全貌が解明できるよう努めていきたい。（近藤）

（調査成果の詳細は『丸亀市内遺跡発掘調査報告書　第１集』（2006.3　丸亀市教育委員会）にて報告）

第45図　西長尾城跡測量図

佐古川・大妻田遺跡

1．所　在　地　丸亀市綾歌町栗熊西字大妻田1693番１他
2．調査主体　丸亀市教育委員会
3．調査期間　平成17年８月31日～９月２日
平成18年１月16日～17日
平成18年２月３日
平成18年３月13日
4．調査面積　3,975㎡
5．調査担当者　丸亀市教育委員会　東信男
近藤武司　大野宏和
6．調査の原因　分譲宅地造成
7．調査結果の概要



第46図　遺跡の位置(「丸亀」)

今回造成計画がなされた区域は、西側に佐古川遺跡、北東に石塚山古墳群、佐古川・窪田遺跡と弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が密となっている地域である。地形的にも佐古川遺跡のある中大束川右岸の微高地から石塚山古墳群の所在する丘陵の中間地点のいちだんと緩勾配となっている区域である。

これらの状況から、遺跡の展開のあることが強く考えられることから試掘調査を行った。

調査の結果、当該区域は旧地形が南から北、東から西に緩やかに下り、今回の調査区の北端及び西端に近い箇所で一気に下る台地状の地形であったことが伺える。後世の土地改良による整地で切り盛りがあり、中世段階では農地としての利用が定着しているようで、北半部及び西半部では鍬溝と考えられる溝が地形に沿った形でほぼ等間隔で確認することができた。

調査区域の中で遺構の確認ができたのは、南東部の南北60m、東西40mの区域で、二辺が直線状の掘形を持つ竪穴住居１棟、径12m以上になると推定される楕円形の竪穴住居１棟、溝数条、土壙、ピットを検出することができた。出土遺物から考えると基本的に弥生時代の集落遺跡が中心となるが須恵器片等も僅かに出土していることから後世まで遺跡が存続していたものと考えられる。

8．まとめ

佐古川遺跡の東に位置する区域での調査を実施し、弥生時代を中心とする集落遺構を確認することができた。大きく見れば佐古川遺跡や佐古川・窪田遺跡と併せて中大束川の東に展開する大規模な集落遺跡と考えられる。しかし、その内部は、佐古川遺跡ように大溝によって集落が区画されている可能性がある。今回の調査区においても西端に下る地形の落ちが確認でき、旧来は流路であったことが想定される水を多く含む砂層が堆積していた。この流路や溝を区画溝として利用していたと考えると、本遺跡の竪穴住居群は、佐古川遺跡と同様の集落内における小規模の単位と考えられる。遺跡の北側は地形の落差が大きいことから遺跡の展開は考え難いが、東側の佐古川遺跡から佐古川・窪田遺跡にかけての段丘上には、同時期の遺跡の展開が考えられる。今後も当地域での開発には積極的に対応し、広範囲な遺跡の展開状況について解

明していきたい。(近藤)

(調査成果の詳細は『丸亀市内遺跡発掘調査報告書　第1集』(2006.3　丸亀市教育委員会)にて報告)

第47図　竪穴住居1完掘状況

第48図　溝遺構確認状況

第49図　竪穴住居2検出状況

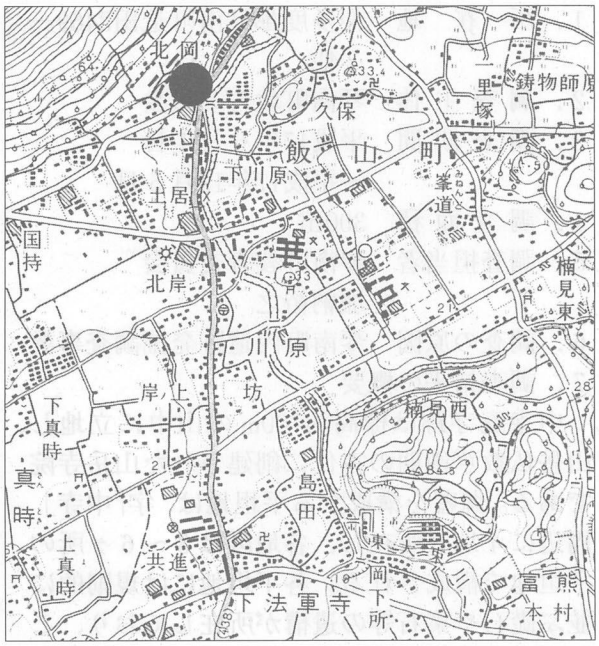
第50図　溝遺構確認状況

第51図　後世農業痕跡確認状況

第52図　旧流路内埋土堆積状況

東坂元秋常遺跡（ひがしさかもとあきつね）

1．所　在　地　丸亀市飯山町東坂元
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成17年11月１日
　　～平成18年３月31日
4．調査面積　2,896㎡
5．調査担当　香川県埋蔵文化財センター
　　蔵本晋司・小野秀幸
　　中嶋将史
6．調査の原因　国道438号道路改築事業
7．調査の概要

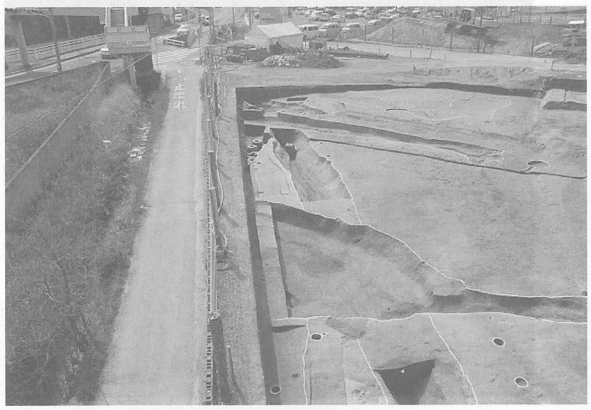


第53図　遺跡の位置（「丸亀」）

発掘調査の結果、弥生時代後期の溝跡、古代の大型灌漑用水路跡、中世後半期の屋敷地跡などを検出し、弥生土器、須恵器、黒色土器、中世土器、輸入陶磁器などが出土した。古代の大型灌漑用水路跡は、幅約２m、残存深約1.2mのＶ字溝で、９世紀頃までには開削され、11～12世紀頃には機能を停止していたことが判明した。本遺跡の北に位置する東坂元三の池遺跡や川津川西遺跡でも、ほぼ同時期・同規模の水路遺構がそれぞれ検出されており、断定はできないが一連の灌漑水路であった蓋然性は高い。取水源については、今後の調査に待たねばならないが、おそらくは飯野山南麓で取水し、東麓の段丘縁辺を掘り抜いて、北麓の平野部へ引水していた、延長２km以上に及ぶ基幹的な水路であった可能性が想定される。また、上述した三遺跡の水路に隣接して、現在上井用水や西又用水が開削されており、現状での水路網の整備が古代に遡り、完新世段丘の形成により、新たな溝が開削され、現在へと引き継がれたものと考えたい。

8．まとめ

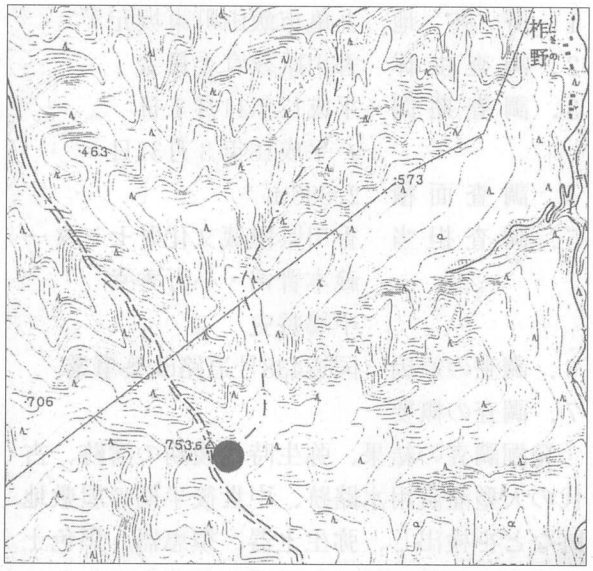
用水の取水源や詳細な溝の開削時期、他遺跡との比較など、まだまだ検討すべき課題は多いが、今回の調査により、丸亀平野東部における古代の開発について重要な知見を得ることができたと考える。（蔵本）


第54図　大型灌漑用水路跡全景

第55図　大型灌漑用水路跡の遺物出土状況

中寺廃寺跡（なかでらはいじあと）

1．所　在　地　仲多度郡琴南町造田3469―2他
2．調査主体　琴南町教育委員会
3．調査期間　平成17年6月1日～平成17年12月5日
4．調査面積　300㎡
5．調査担当者　琴南町教育委員会　加納裕之
6．調査の原因　琴南町内遺跡発掘調査事業
7．調査結果の概要



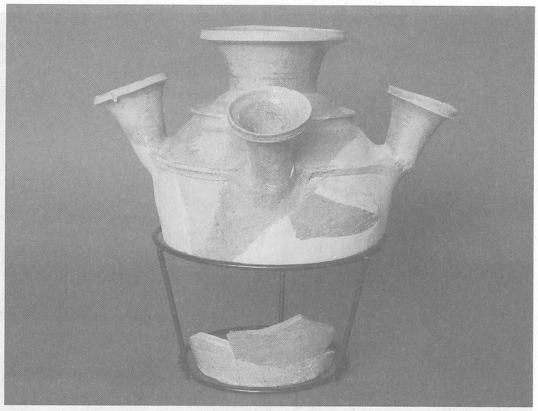
第56図　遺跡の位置（「内田」）

中寺廃寺跡は標高約700mの山中に立地し、山岳仏教草創期の古代に創建された山岳寺院である。伽藍を構成する平坦地は、字「中寺」周辺に4地区所在し、各地区は3～6ヶ所の平坦地で構成される。各平坦地には規則的に並ぶ礎石や集石等の遺構が所在しており、これまでの発掘調査により仏堂跡・塔跡を確認した。平成17年度は遺跡北東に位置する地区の調査を行った。第1テラスにおいては基壇と前面の広場を伴なう5間×3間、床面積60㎡の大規模な礎石建物跡を確認した。建物跡中央において仏像を安置した修弥壇の基礎の石を確認したため、建物は仏堂跡と考えられる。第2・3テラスにおいては数棟の掘立柱建物跡を確認した。竈・鍋・皿等の調理具・供膳具が出土したため、建物跡群は僧房跡と考えられる。建物跡より出土した遺物は9世紀末～11世紀の時期を示す。特質すべきは、僧房跡から出土した兵庫県西播磨産須恵器多口瓶や中国浙江省越州窯系青磁椀精製品である。当時、これらの貴重品を有しうる強い影響力を持つ組織が寺院造営に関係したと考えられる。

i．まとめ

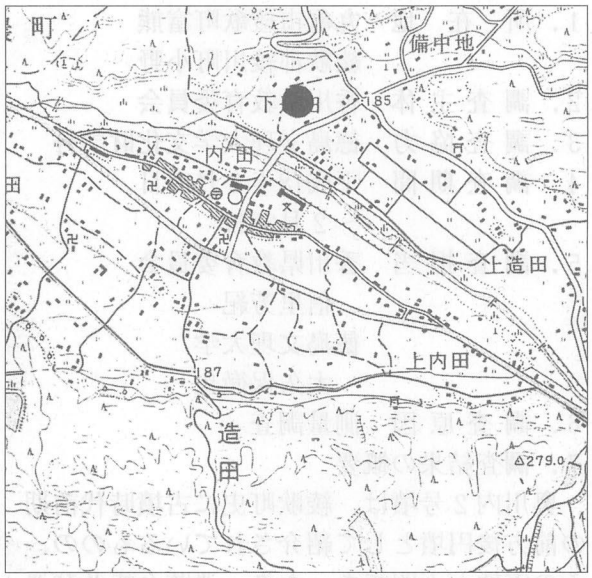
既存調査成果を元に中寺廃寺跡全体の変遷を整理すると、①8世紀中葉：山中への進出、②10世紀前半：寺院の拡張、③12世紀以降：寺院の衰退と3段階の画期が確認できる。県内に所在する他の山岳寺院の展開も共通する要素が認められるため、中寺廃寺跡が展開した過程が明らかになれば、県内に展開する仲南町尾ノ背廃寺や高松市千間堂跡等、他の山岳寺院の展開を考える好例となると考えられる。（加納）

第57図　仏堂跡より大川山を望む


第58図　西播磨産須恵器多口瓶

椀貸塚（わんかしづか）

1．所　在　地　仲多度郡琴南町造田字大西
2．調査主体　琴南町教育委員会
3．調査期間　平成18年２月２日
　　～平成18年２月13日
4．調査面積　６㎡
5．調査担当者　琴南町教育委員会
　　加納裕之
6．調査の原因　琴南町内遺跡発掘調査事業
7．調査結果の概要



第59図　遺跡の位置（「内田」）

椀貸塚が所在する「造田」の由来は、川原に田を作ったため造田という説と、沢の田から起こった名という説があり、塚の周辺は元々土器川の川原であったと思われる。また、椀貸塚の周囲には中世城館である造田城があり、周辺の水田には「大屋敷」「門地」「隠居地」などの城館に関連した通称地名が残存している。椀貸塚は現在東西約14m×南北約８ｍで高さ約２ｍの塚で、塚の上には五輪塔や板石などが置かれている。

昨年11月に県が行った発掘調査では塚の周囲を巡る溝と、周囲に広がる中世集落の痕跡が確認された。周囲の溝の位置より、本来の塚の形は楕円形であることを確認した。今回は塚の性格・時代を解明する目的で２月２～13日の間発掘調査を実施した。

発掘調査により、塚は川原石を１ｍほど盛り上げて作られたことを確認した。石積の中からは鎌倉～江戸時代の灯明皿・土鍋等が出土し、塚の上にある五輪塔も同じ時期に作られたことを確認した。以上の成果より椀貸塚は中世に造られた石積みの塚であったと考えられる。

ⅱ．まとめ

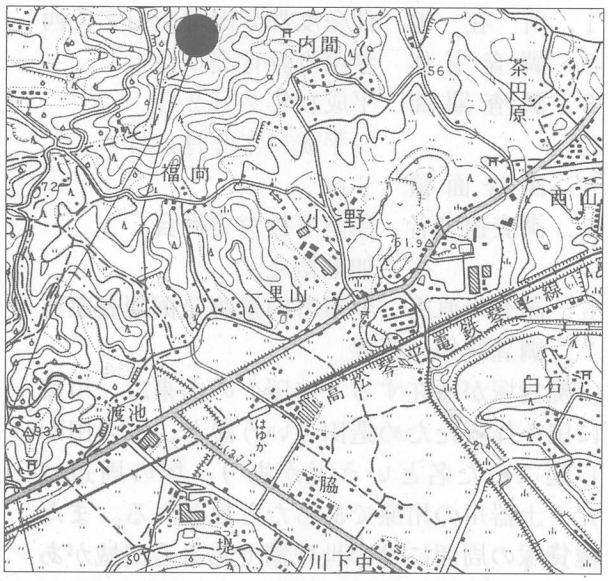
鎌倉～江戸時代は、周辺に豪族の屋敷や山城が作られ、土器川周辺の開墾が進んだ時代である。開墾の際に周辺の川原石が一箇所に集められ、そこで灯明皿・五輪塔などを用いて農耕に関する祭祀が行なわれたと考えられる。椀貸塚は先人が土器川周辺を開拓した歴史を今に伝える文化財であるといえる。

第60図　椀貸塚遠景

第61図　塚の断面（石を約１ｍ積み上げる）

奥川内2号墳

1．所　在　地　丸亀市綾歌町富熊
　　綾歌郡綾川町小野
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査協力　徳島文理大学文化財学科
4．調査期間　平成18年2月21日
　　～2月28日
5．調査担当　香川県教育委員会
　　信里芳紀
　　徳島文理大学
　　大久保徹也
6．調査原因　測量調査
7．調査結果の概要



第62図　遺跡の位置(「滝宮」)

奥川内2号墳は、綾歌町史に古墳時代前期の前方後円墳として紹介されているものの、その実態が不明であった為、遺跡台帳及び遺跡カードの充実を図ることを目的として測量調査を実施した。

奥川内2号墳は、全長約29mの前方後円墳であり、正円形を呈する直径約17mの後円部に、低平な前方部をもつ。後世の封土流出により、前方部コーナーの詳細な形状が把握できない。

墳丘北側は、過去の開墾によって滅失しているが、後円部と前方部の境付近の法面に、安山岩の石列が残存している。石列は、石垣状に組まれており、県内の古墳時代前期前半期の積石塚や盛土墳に認められる葺石に類似している。また、石列は、検出位置と高さから見て、前方部のテラス面に構築されている可能性が高い。前方部は二段築成と考えられるが、後円部については不明である。

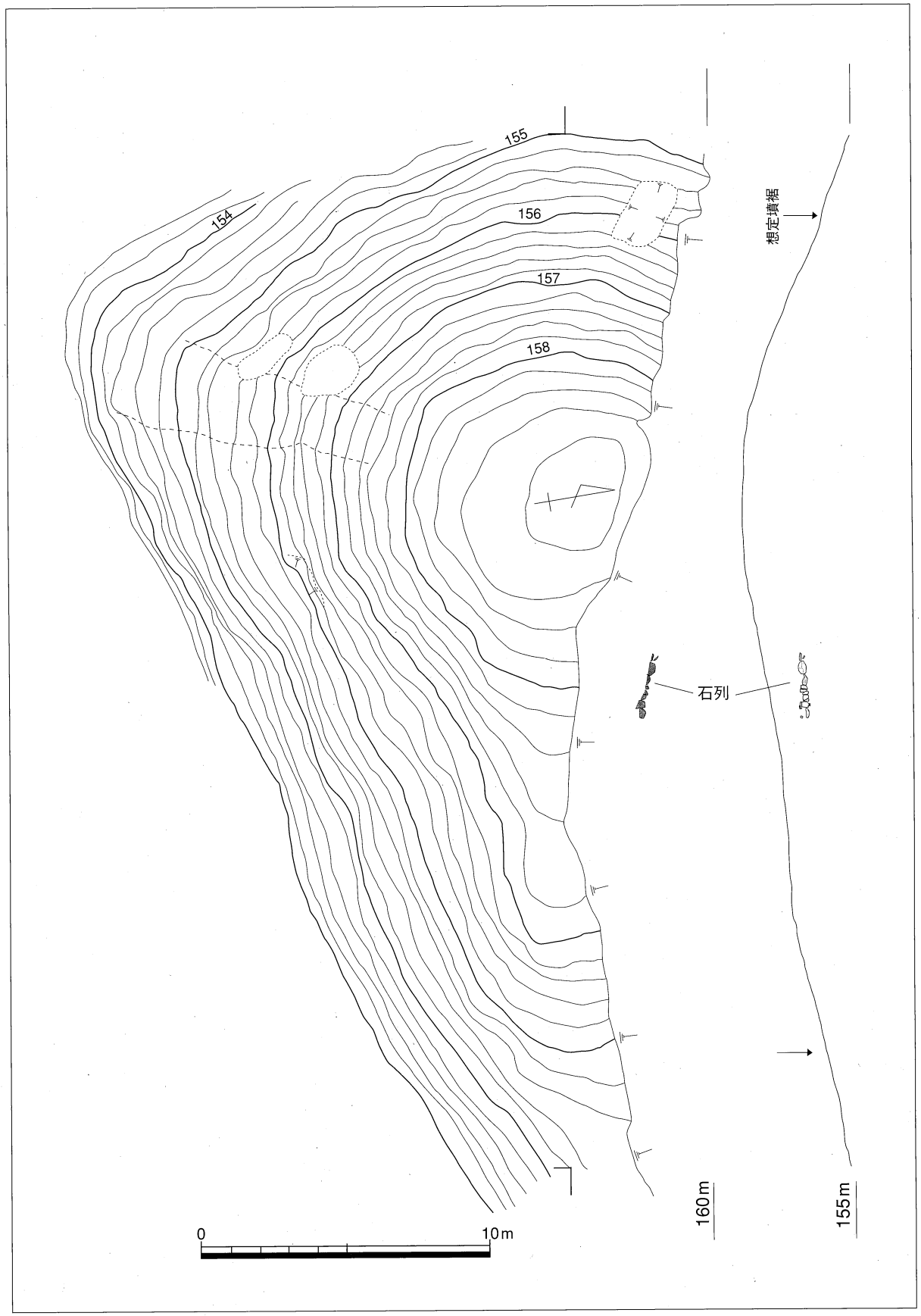
この石列の構築方法は、古墳前期後半期築造の快天山古墳以後には見られない点が指摘されており、本墳の築造時期を推定する手掛かりとなる。

8．まとめ

奥川内2号墳は、古墳時代前期前半期の築造の可能性が高いことが判明した。細かな時期比定では、快天山古墳より先行すると見られる。本地域の首長墓系列のみならず、在地色が豊かな県内の前期古墳の検討を行う際の良好な資料となろう。(信里)

第63図　墳丘の現状

第64図　石列検出状況



第65図　墳丘測量図

西末則遺跡（にしすえのりいせき）

1．所　在　地　綾歌郡綾川町
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成17年４月１日～６月30日
4．調査面積　1,965㎡
5．調査担当者　香川県埋蔵文化財センター
　　長井博志　福家正人　森麻子
6．調査の原因　香川県農業試験場移転
7．調査の概要

第66図　遺跡の位置（「滝宮」）

発掘調査の結果、弥生時代後期の溝跡、旧河道、中世前半の集落跡を検出した。遺物は多量の弥生土器が主に旧河道から出土した。

弥生時代後期の溝跡は２条の旧河道に切られているため部分的な検出にとどまったが、平地部を西へ流下する状況を確認した。この溝は既往の調査では溝跡か、旧河道かが不明瞭であったが、今年度の調査区では、遺構の断面形が整った逆台形であること、直線的に延びることを確認したため溝跡と判断した。

中世前半の集落跡は掘立柱建物跡10棟以上、柵列跡、溝跡等で構成され、多くは本遺跡付近で見られる条里型地割（座標北より17°東に振る）と方向を揃える。集落の盛行期は出土遺物より14世紀代と考えられる。

また、建物群に近接して地鎮遺構３基を確認した。このうち14世紀代に属する１基から土師器小皿の内部で銅銭とともに籾殻を確認した。県内で検出されている地鎮遺構のうち、植物遺体が伴うのはこの１例にとどまるが、五穀は銭貨などと同様に呪力を備えたものとされ、中世の地鎮儀礼を検討する上で重要な資料と考えられる。

8．まとめ

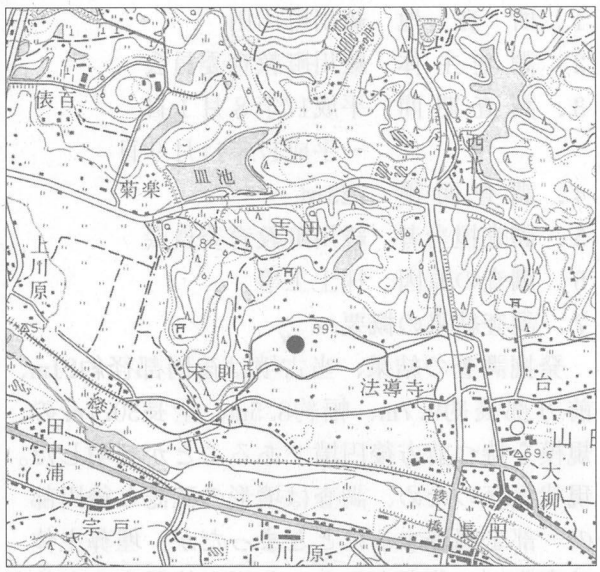
平成13年度から実施してきた西末則遺跡の発掘調査は、今年度が調査最終年度にあたり、５ヵ年にわたる延べ調査面積は約75,857㎡である。今年度の調査では先述したように隣接調査区で検出していた弥生時代後期の溝跡の状況や旧河道との重複関係、中世前半の小規模集落の範囲が明らかになった。（長井）

第67図　中世集落跡全景

第68図　地鎮遺構跡

山田下吉田遺跡

1．所　在　地　綾川町山田
2．調査主体　綾川町教育委員会
3．調査期間　平成17年11月25日
　　～平成18年１月31日
4．調査面積　288㎡
5．調査担当者　綾川町教育委員会
6．調査の原因　ほ場整備
7．調査の概要



第69図　遺跡の位置（「滝宮」）

調査の結果、弥生時代終末期の溝と柱穴、古墳時代後期の竪穴住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・柱穴等を検出した。住居址は一辺５m前後の方形住居が主体で、ほぼ北側にかまどを持つ。調査区全域に分布するが、南部では３棟の切り合いを持つものが認められた。遺物は少量の須恵器・土師器が出土した。遺構の切り合いはあるものの、大きな時期差は認められない。SH02は北側にカマドを持った推定一辺約５m、４本主柱穴を持った竪穴住居址で、上層からの長方形土坑の掘り込みを確認している。床面では噴礫（1.6m×0.9m）を検出した。７世紀前葉を前後する時期の地震の痕跡と考えられる。SB01は調査区ほぼ中央で検出した。径約0.6mの柱穴規模を持つ２間×３間（4.8m×6.9m）の大型掘立柱建物址である。柱穴内からは少量の遺物が出土している。

8．まとめ

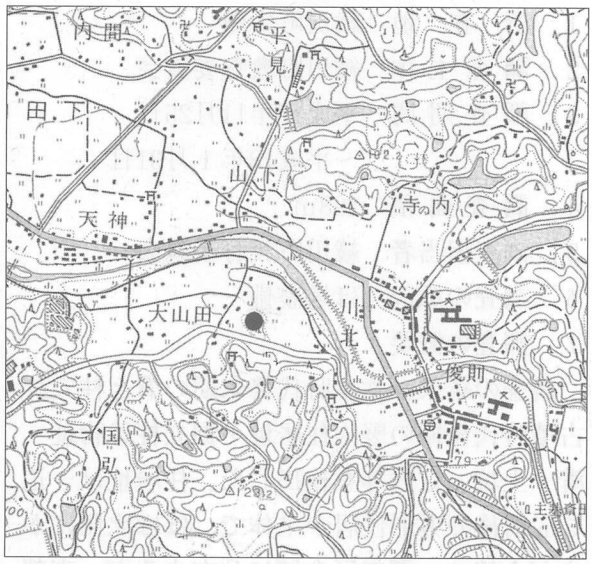
この山田下吉田遺跡は、遺跡の北側に東西方向に伸びる尾根の先端付近には、詳細は定かでないが末則古墳群や吉田古墳群が確認されており、時期的・地理的に近接した遺跡であると考えられる。また、検出した噴礫も古墳時代後期の地震の痕跡として年代を特定しえるもの考えられる。（片桐）

第70図　SH02（北方向から）

第71図　噴礫（東方向から）

三島古墳

1．所　在　地　綾川町山田
2．調査主体　綾川町教育委員会
3．調査期間　平成17年８月１日
　　～平成17年11月９日
4．調査面積　723㎡
5．調査担当者　綾川町教育委員会
6．調査の原因　採土工事
7．調査結果の概要

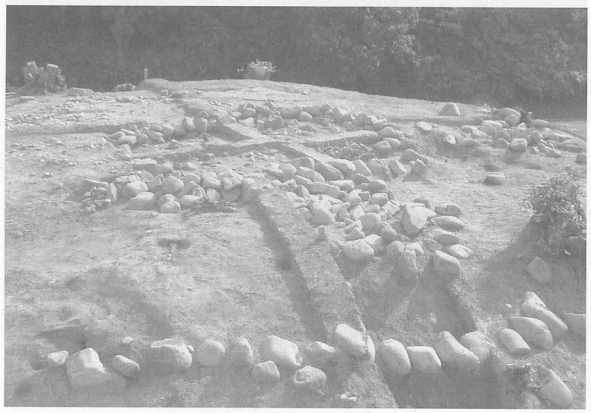


第72図　遺跡の位置図(「滝宮」)

発掘調査の結果、当古墳は後円部径約21m、前方部長約9.7m、幅約8.5m、全長30.7mの規模を持つ前方後円墳であることが判明した。現状保存のため、調査は墳形の確認と後円部の一部を調査するにとどまったが、埋葬主体は南北に２基存在した。北側に位置する主体が主主体(第１主体部)で、主軸をN－83.5°－Eに持ち、規模は東西約300cm、南北約210cm、中央付近がやや膨らむ隅丸長方形の平面形態を呈する。上面には蓋石は存在せず、石室内を15cm程度掘り下げた際小円礫が出土したことから、木蓋の使用を想定する。石室の北・西・東部で人頭大の塊石群を検出しており、土層の確認から墳丘築成と同時の石室構築が考えられた。使用している石材はそのほとんどが河原石で、一部花崗岩と安山岩を使用していた。南側に位置する主体部は表土除去後小円礫群の広がりを東西約5.3m、南北約3.5mの範囲で確認し、東側では人頭大の塊石群も検出している。後円部北側で２段の列石が良好に遺存しており、前方部端と南側くびれ部でも墳裾に巡らされていたと考えられる列石が残っていた。遺物はほとんど出土していないが、後円部西側斜面に集中しており、そのほとんどが小片であった。

8．まとめ

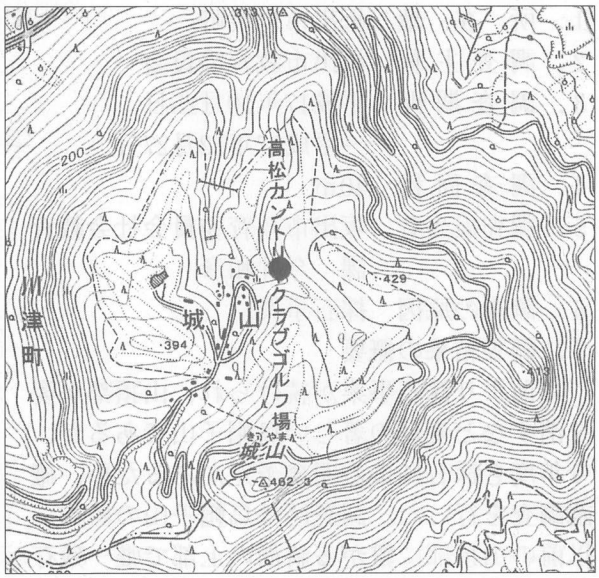
三島古墳は、丸亀市綾歌町の石塚山２号墳や兵庫県御津町の綾部山39号墓同様、墓壙そのものを石材で構築した特異な石室形態を持った、綾川流域で最古の部類に属する前方後円墳と考えられる。(片桐)


第73図　第１主体部

第74条　前方部より後円墳

史跡城山（きやま）

1．所　在　地　坂出市西庄町
2．調査主体　坂出市教育委員会
3．調査期間　平成17年7月25日
　　～10月17日
4．調査面積　13.5㎡
5．調査担当者　坂出市教育委員会
　　増田鉄平
6．調査の原因　重要遺跡確認調査
7．調査結果の概要



第75図　遺跡の位置図（「白峰山」）

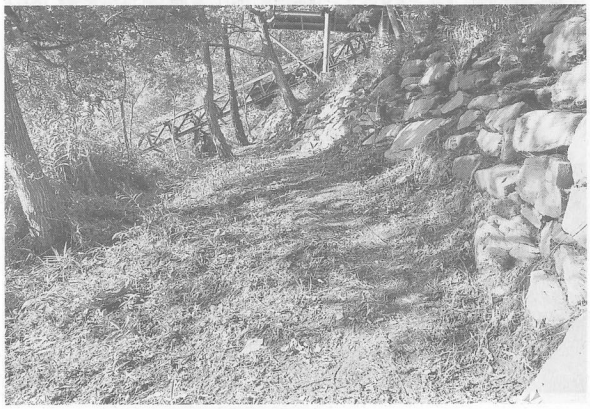
史跡城山は坂出市の西庄町、川津町、府中町と丸亀市飯山町にまたがる標高462mの山で、古代山城と考えられている史跡である。標高300mと400m付近で傾斜が一旦なだらかとなり、この傾斜変換点に石塁・土塁が巡らされている。塁形態が傾斜変換点をL字に削り落とすようにして作ったもので、標高の高い方から第一車道（内郭）・第二車道（外郭）と呼称されている。

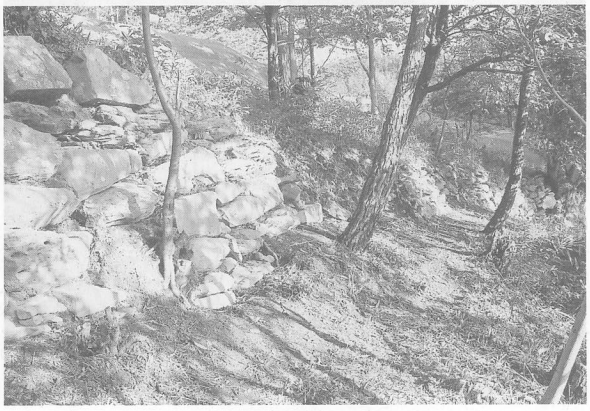
平成10年度に水口跡近辺を約28m、昨年16年度にはそこからゴルフ場の道路を跨いで北に伸びる石塁を約14m実測しており、今回測量した場所はそのさらに北の部分である。

調査距離は約13.5m、現在の石塁の高さは1m～1.5mで所々では石塁が途切れる。北に向かうに従いなだらかに標高が高くなるため、測量開始点と終了点の高低差は1.5～2mになる。明確ではないものの、約2m幅ごとに僅かながら作業単位を生じているような印象を受ける。石材は安山岩を使用し、露出部の面積は小さいもので20cm×10cm、大きいもので80cm×40cm程度である。小口部を表面にして積んでいるようだが、石が疎であるため積んでいるというよりは土に埋め込まれているような状況を呈する。また塁の一部か基底部の列石かは掘削を行っていないため定かではないが、地中にも石が存在している。

8．まとめ

史跡城山の石塁測量調査はこれで総延長約55.5mとなった。石塁全体から見ればまだまだほんの一部と言わざるを得ないが、基礎資料の整備ということで、次年度以降も引き続き石塁を中心とした測量調査を行っていく予定である。（増田）

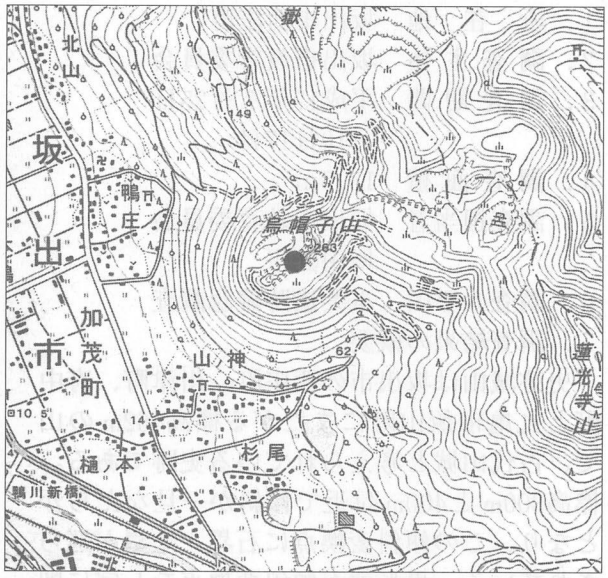

第76図　測量部石塁写真1


第77図　測量部石塁写真2

烏帽子山遺跡

1．所　在　地　坂出市加茂町
2．調査主体　坂出市教育委員会
3．調査期間　平成17年10月25日
　　～平成17年12月27日
4．調査面積　40㎡
5．調査担当者　坂出市教育委員会社会教育課　今井和彦
6．調査の原因　採石事業
7．調査結果の概要

以前より採石事業が続けられ、山頂部が姿を消すなど変形の著しい烏帽子山であるが、今年度も採石による開発予定があるため、確認調査を行った。調査区は烏帽子山の西側、以前の山頂部に繋がる斜面の上部で唯一残存していた場所である。



第78図　遺跡の位置(「白峰寺」)

調査区全体に渡り巨石および立木が散在していたため、トレンチを設けるだけの十分な場所が得られず、計30の地点でピット状の試掘調査を行った。ただし地面が露出する地点においても土の堆積は少ない。

調査の結果全体に微量の遺物が発見できたが、分布は山頂部付近に集中しており、下方および南側では極少量となる。遺物包含層は黒色粘質土であり、これは山頂部の遺物包含層の土と一致するが、斜面部にもともと存在しているものではないようである。斜面部の遺物包含層から出土する遺物は、山頂平坦部からの流出による堆積物であろう。遺構も全面にわたり確認できなかった。

遺物は弥生土器の破片が多くを占める。また石鏃・敲石も少量ながら出土した。

8．まとめ

烏帽子山遺跡は山頂部を中心とした弥生時代遺物の散布地として考えられていた遺跡であるが、これまでの調査および今回の調査により、遺跡の中心は失われた山頂の平坦部に存在していたと考えられる。斜面部についてはこの山頂部から流出した土砂および遺物が、斜面部の石と石の間などの場所に堆積したものと考えられる。(今井)

第79図　調査部写真１

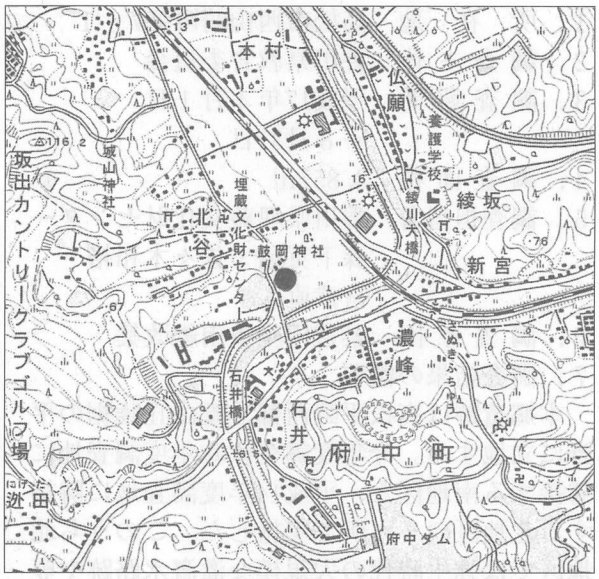
第80部　調査部写真２

開法寺跡

1．所　在　地　坂出市府中町
2．調査主体　坂出市教育委員会
3．調査期間　平成18年２月２日
　　～３月30日
4．調査面積　69.3㎡
5．調査担当者　坂出市教育委員会
　　増田鉄平
6．調査の原因　重要遺跡確認調査
7．調査結果の概要

今年度の調査区は従来より講堂の存在が想定されてきた場所である。

調査の結果、礎石と同抜取穴が多数確認され、寺院関係の建物が存在していることが明らかになった。礎石、抜取跡ともに一列に配されるため、大幅な移動はないものと考えられる。多くの抜取跡には、内部に拳大の石片に囲まれた石塊を内包しており、過去に礎石の一部が移動された際、壊れたものと推察される。



第81図　遺跡の位置(「白峰寺」)

建物規模については確定できないが、調査区東部にて建物存在時の遺構面が急激に変化する部分があり、建物東限を示すと思われる。この建物が講堂に相当するものかどうかは、既往の調査結果を含めた検討が必要である。この変化点より東にある２つの礎石は、その規模も小さいことから回廊の礎石である可能性が高い。

また、今回は調査区内の未掘部分にてレーダー探査による調査も併せて行い、上記の土層急変点が調査区の南北にわたるものであることが分かった。

発見された遺物は殆どが摩滅した瓦片であるが、調査区東端の瓦溜りや抜取跡などからは、比較的原型を留めた平瓦片が出土している。

8．まとめ

平成11年度から継続して行っている開法寺跡の調査であるが、これで寺域内にて３つの建物跡が確認されたことになる。回廊の様子も徐々に解明されつつあり、伽藍配置の復元に関しては一定の成果が見られている。ただし全般に農地開拓等による攪乱の影響もあり、規模、時期に関して確定ができていない部分が多い。(増田)

第82図　調査区西礎石写真

第83図　レーダー探査実施状況写真